



2026年度 現代教養学環 履修要項



**この冊子は卒業まで使用します。
大切に保管してください。**

この冊子は履修・学修を進めるにあたっての基本事項を
まとめたものです。次年度以降の配布はありませんので、
大切に扱ってください。

※記載内容を変更する場合がありますので、
「UNIVERSAL PASSPORT」等で確認してください。



学校法人 桐蔭学園
桐蔭横浜大学

2026年度

履修要項

教育課程および履修方法

目次

2026年度 現代教養学環 履修要項

学修や学生生活を円滑にするために

学生と教員・職員のコミュニケーションを大切に 4

1 履修について 5

1 単位とは	5
2 卒業までに修得すべき単位数について	5
3 セメスター制度について	5
4 卒業見込証明書発行基準	6
5 現代教養学環の授業科目と卒業要件	6
6 現代教養学環独自の4年間の学びの流れ	8
7 進級と留学について	10
8 履修申告について	10
9 履修申告単位数の制限について	10

2 授業について 11

1 授業について	11
2 授業の欠席について	11
3 遅刻について	13
4 休講と補講	13
5 集中講義及びIAL (インテンシブ・アクティブラーニング) タームについて	14
6 緊急時の授業の取り扱い	15

3 試験・成績について 16

1 試験について	16
2 成績評価について	17
3 成績不良学生に対する警告	18
4 単位認定について	19
5 単位認定制度	19
6 留学制度について	20

4 卒業について 22

1 卒業延期制度	22
----------------	----

5 MASTとは 24

1 MASTの概要	24
2 大学共通の学習支援	26
3 MAST A科目	27
4 コア科目	28
5 MAST B科目	28
6 MAST C科目	29
7 ウェルビーイングプログラム	30
8 各コンポで学べること	30

6 現代教養学環教育課程表 34

資料編

校舎平面図	40
キャンパスマップ	58

学修や学生生活を円滑にするために

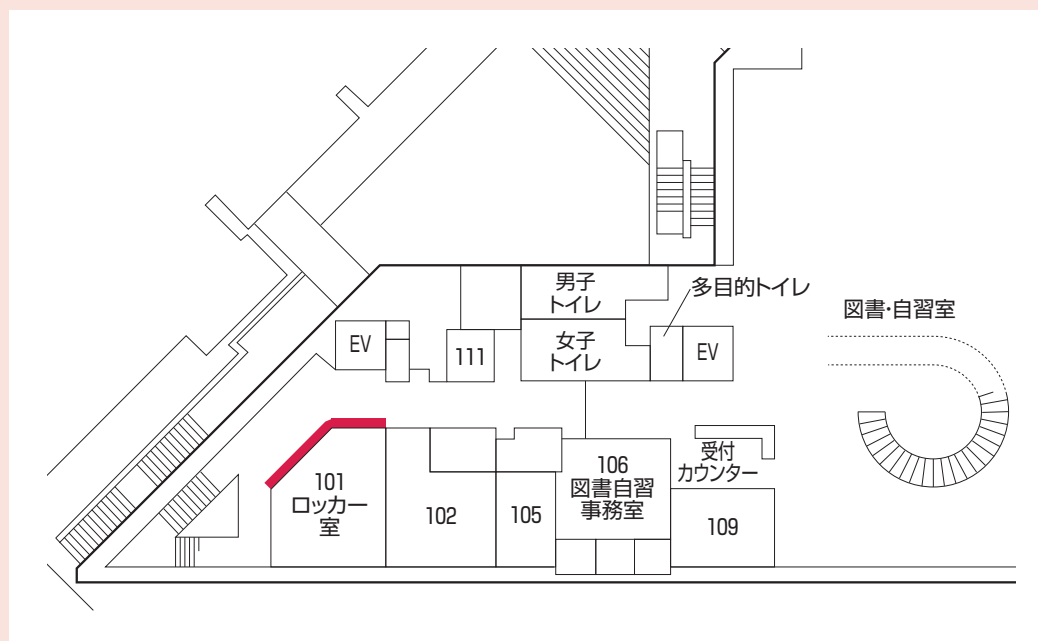
学生と教員・職員のコミュニケーションを大切に

履修の方法、申告の仕方、レポートの提出方法、就職準備の心構えなど、個々の学生だけでは処理しきれないことが大学生活には多々あります。

そこで、現代教養学環では、学生と教員間のコミュニケーションを重視し、それを通じて様々な問題が解決できるように心がけています。学生と教員・職員のコミュニケーションの手段としては、以下があります。

1. 掲 示 板	休講連絡、レポート課題、学生呼び出しなど重要な連絡が貼り出されます。
2. 教員研究室	I号館の5、6階または、IV号館の5、6階です。担任の教員、ゼミの教員の研究室の場所を確認しましょう。
3. 学生への一斉送信メール	緊急連絡などは学内メールあてに送信されます。学内メールの受信設定、自分の携帯メールへの転送設定を忘れずに行ってください。
4. 桐蔭ユニバーサル・パスポート (桐蔭ユニバ)	科目により、教員からのレポートや、授業時の資料などの指示がでます。また逆に、講義内容の質問を教員にすることができます。
5. そ の 他	活動により、学内メールや桐蔭ユニバ以外のコミュニケーションツールの使用を指示する場合があります。使用方法がわからない場合には必ず担任もしくはゼミの教員に確認してください。

■ 掲示板 IV号館1階



1 履修について

1 単位とは

本学は単位制をとり、卒業するためには、定められた期間内に、所定の単位を修得しなければなりません。単位とは、学修の成果を量的に示すものであり、1単位は次のように定められます。

講義、演習及び外国語	15時間の授業で1単位	15時間の予習、15時間の授業、15時間の復習から構成されるべきものと想定されている。
体育実技	30時間の授業で1単位	

なお、この場合の1時間の授業とは、正味45分の授業を意味しており、本学で行われている105分授業は2時間にあたります。従って以下ようになります。

講義、演習及び外国語	105分講義13回	2単位
体育実技、その他実習	105分授業13回	1単位

2 卒業までに修得すべき単位数について

学則上、4年間在学し、この期間に卒業要件単位数 **124単位以上** を修得することにより、卒業して、学士（学術）の学位を得ることができます。4年終了時に1単位でも不足すると、5年目以降にこれを履修しなければならなくなります。4年間で卒業要件単位を修得できない場合は、6年間まで在学することができます。（休学期間はこれに算入されません。また5年目以降は、卒業要件を満たした9月、あるいは3月に卒業することになります。）

3 セメスター制度について

科目の配置については、一般に通年制とセメスター制とがありますが、本学ではセメスター制を採用しています。セメスター制とは、各学年の前期・後期ごとに履修をすることができるようカリキュラムを配置するものです。4年間で卒業するには、8学期（8セメスター）を使って卒業に必要な単位を修得することになります。

■ 目標単位の目安

4年間で卒業するためには、3年次末から就職活動や資格試験準備が本格化することを考慮して、セメスターごとに20単位、各学年で40単位程度を修得することを目安として励んでください。セメスターで15単位を下回ると、卒業要件単位数124単位以上を修得することができないので要注意です。ただし、学年・学期によっては配当される科目が20単位を下回ることもありますので、履修計画については必ず担任もしくはゼミの教員に確認してください。

	1年		2年		3年		4年	
各学期20の場合	20	40	60	80	100	120	残4	
各学期15の場合	15	30	45	60	75	90	105	120×

4 卒業見込証明書発行基準

卒業見込証明書は以下の基準で、4年次に進級した後に発行されます。

- ① 4年次前期中の卒業見込証明書の発行基準は修得単位90単位以上とする。
- ② 4年次後期中の卒業見込証明書の発行基準は106単位以上とする。

学生便覧の11ページも参照してください。

5 現代教養学環の授業科目と卒業要件

現代教養学環の授業科目は、一般教育科目・学環専門科目で構成されています。開講される科目の一覧は、34ページの「6 現代教養学環教育課程表」に示されています。(但し、事情によって当該年度に開講されない科目もあります。)

科目によっては卒業要件単位に含まれないものもあります。詳しくは毎年のオリエンテーション時に確認してください。

■ 卒業要件の単位数の表

一般教育科目	39単位 (以上)
学環専門科目	59単位 (以上)
自由選択科目	26単位 (以上) 注1、2

注1：一般教育科目から6単位(以上)、学環専門科目及び他学部の開講科目から20単位(以上)を修得すること。

注2：サステイナブル工学コースの学生は、一般教育科目から修得すべき6単位を学環専門科目及び他学部の開講科目から修得してもよい。

■ 科目の選択について

現代教養学環では、科目の選択の方法が4種類あります。

- ・必修…………卒業までに必ず修得しなければいけない科目。
- ・選択必修…指定された科目群の中から、指定された単位数を卒業までに必ず修得しなければいけない科目。
- ・必須…………配当学年・学期に履修しなければいけない科目。当該学期に単位を修得できなかった場合に再履修をする必要はありません。
- ・選択…………開講されている科目から自由に選択する科目。

1) 一般教育科目

一般教育科目は、MAST^{注1} A、B、C、ウェルビーイングプログラム、特別講義に区分されます。卒業に必要な一般教育科目は、すべての現代教養学環の学生が**39単位以上**を修得しなければなりません。そのうち、以下の科目は必修、選択必修、必須となっています。留学生はこれらに加えて、日本語I A、I B、II A、II B、III A、III Bまで合わせて16単位が必修です。

科目区分	必修	選択必修	必須
MAST A	桐蔭キャリアゲート〈1前〉、桐蔭スキルゲート〈1前〉、データコミュニケーション入門〈1後〉、英語コミュニケーションI〈1前〉・II〈1後〉		
MAST B	コア科目〈1前〉(現代教養の科学A・B・C) プロジェクト入門(現代社会)〈1後〉 ^{注3}	プロジェクト入門〈1後〉 ^{注2}	

科目区分	必修	選択必修	必須
MAST C	分野横断型プロジェクト〈2後〉		
ウェルビーイングプログラム		ことばのスキル〈1年次〉、桐蔭キャリアゲートⅡ〈1後〉、キャリアセミナーⅠ〈2前〉・Ⅱ〈2後〉・Ⅲ〈3前〉	

注1：MAST科目については、24ページ以降の「5 MASTとは」を参照してください。

注2：プロジェクト入門は5つのコンポがテーマを設定し、それぞれに授業が開講されます（年度によって開講される授業は異なります）。1科目以上を履修しなければいけません。詳細は、授業時間割を確認してください。

注3：現代教養学環の学生は、注2に記す、5つのコンポのプロジェクト入門以外に、「プロジェクト入門（現代社会）」を必ず履修しなければいけません。

2) 学環専門科目

学環専門科目は、学環基礎科目、コース基礎科目、コース発展科目、演習に区分されます。卒業に必要な学環専門科目は、すべての現代教養学環の学生が**59単位以上**を修得しなければなりません。そのうち、以下の科目は必修、選択必修、必須となっています。

科目区分	必修	選択必修	必須
学環基礎科目	フィールドスタディⅠ〈1前〉、ロジカルライティング〈2前〉、ロジカルコミュニケーション〈2後〉	DX科目〈2後〉 ^{注1} (デジタルスキル、データ コミュニケーション)	現代社会の科学〈3前〉、現代社会と学術研究〈3後〉
コース発展科目		研究法〈3前〉 ^{注2} (地域社会学研究法、マーケティング学研究法、国際コミュニケーション学研究法、心理学研究法、サステナブル工学研究Ⅰ・Ⅱ)	
演習	専門探究ゼミナールⅠ〈3前〉・Ⅱ〈3後〉・Ⅲ〈3後〉・Ⅳ〈4前〉 知識集約型研究プロジェクトⅠ〈4前〉・Ⅱ〈4後〉		基礎ゼミナールⅠ〈2前〉・Ⅱ〈2後〉 ^{注3}

注1：デジタルスキルかデータコミュニケーションのどちらか1つを履修すること。

注2：選択したコースの研究法を必ず履修すること。ただし、サステナブル工学コースについては、Ⅰ・Ⅱの両方を履修すること。

注3：基礎ゼミナールⅡは、コースごとに開講されます。3年次で選択を希望するコースのゼミを含む2つ以上の基礎ゼミナールⅡを履修すること。

3) 自由選択科目

一般教育科目を39単位・学環専門科目を59単位修得しても、卒業要件単位124単位まで、残り26単位修得する必要があります。この26単位については、一般教育科目から6単位、学環専門科目・他学部の開講科目から20単位を自由に選択できます。つまり、一般教育科目（39単位以上）・学環専門科目（59単位以上）・他学部の開講科目の修得単位が合わせて124単位を超えていれば卒業要件を満たします。

ただし、他学部の開講科目については、他学部履修のルールに則って、適切な手続きを行った上で、履修をしてください。

6 現代教養学環独自の4年間の学びの流れ

現代教養学環では、各コースの専門科目やゼミでの教育を通して専門性を身につけるとともに、プロジェクト科目では社会実装のための知識やスキルを学びます。また、大学生活にとどまらず、生涯学び続けるための基礎となる学ぶ技術や問題解決能力を養っていきます。

	1年次	2年次	3年次	4年次
学ぶスキルを高める科目群	プロジェクト入門 (現代社会)	ロジカルライティング ロジカルコミュニケーション DX科目	現代社会の科学 現代社会と学術研究	専門探究ゼミナールⅣ
専門性を身につける科目群	コア科目		研究法	
	※コースの選択科目			
		基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ	専門探究ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ	
社会で実装する科目群	プロジェクト入門	分野横断型プロジェクト		知識集約型研究 プロジェクトⅠ・Ⅱ
	桐蔭キャラバン (フィールドスタディⅠ～Ⅳ)			

1) 1年次～2年次前期 幅広く自分の興味を探索する期間

5つのコースのコア科目をすべて学び、各コース・領域における“ものの見方”を学びます。必修・必須科目が多いので、授業に遅刻・欠席せず、課題を提出する習慣を身につけましょう。さらに自分の興味・関心に合わせて科目を選択しながら、2年次以降の選択するコースを考え始めてください。

プロジェクト型学習の入門科目として、プロジェクト入門があります。プロジェクト型学習とは、身の回りの出来事や社会にある問題・課題の解決のために、他の授業で身につけた知識や技術を総動員して臨む学習形態の科目のことです。

2) 2年次 分野を横断しながら学ぶ期間

基礎ゼミⅠで各コースでの実践・研究に触れて自分の興味・関心を絞り、基礎ゼミⅡで専門的な学びの第一歩を踏み出します(ゼミ選択については「4)コース制、ゼミ選択について」を確認すること)。

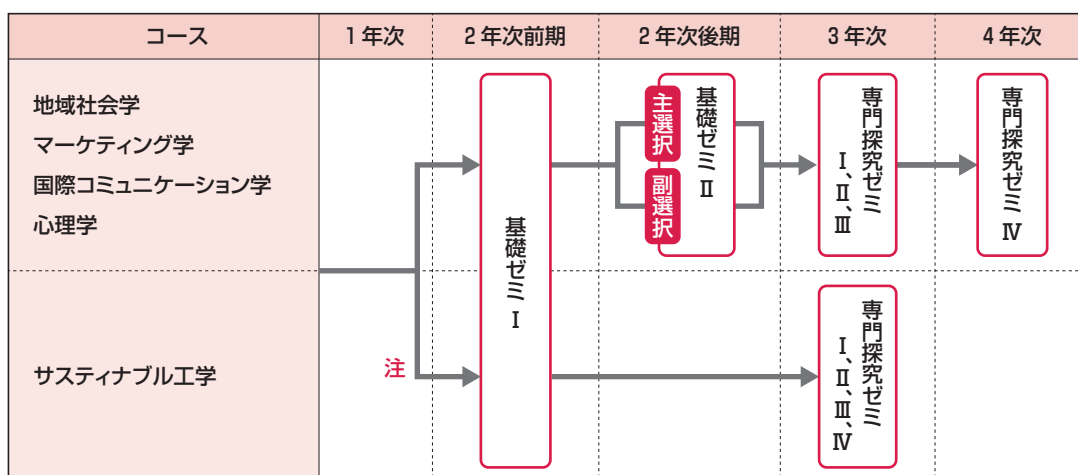
また、学環基礎科目(ロジカルライティング、ロジカルコミュニケーション)では、文章を構成する力や、自分の考えや意見を論理的に伝える力、批判的に物事を捉える力の基礎を身につけます。分野横断型プロジェクトでは、各コースで学んだ知識やスキルを活用して、企業や団体、地域社会の抱える問題を発見し、原因分析から解決策の提案までを実践的に学びます。これらの科目で学ぶことは、3・4年次の研究やプロジェクト科目を遂行する上で非常に重要なことからです。この時点で修得することを目指してください。

3) 3年次 専門性を深める期間

コースの基礎科目や学びの基礎となる科目を修得した上で、自分の専門性を深めていきます。自分の選択したコースの専門探究ゼミで、1年間、個人研究に取り組みます。現代社会の課題を探究する活動を通して、視野を広げるとともに、問題解決能力を養います。ゼミでの研究と並行して、学環基礎科目(現代社会の科学、現代社会と学術研究)では、2年次に学んだことを発展させて、文献や資料から情報を収集・整理すること、思考や意見を他者に伝える論理的な文章としてまとめること、データを分析して結果を記述すること、調査結果を批判的に検討することを学びます。

4) 2年次～3年次 コース制、ゼミ選択について

現代教養学環には、〈地域社会学〉、〈マーケティング学〉、〈国際コミュニケーション学〉、〈心理学〉、〈サステナブル工学〉の5つのコースがあります。1年次から4年次までどこかのコースに所属するのではなく、コースに所属するのは3・4年次です（ただし、サステナブル工学コースのみ2年次からコースに所属し、カリキュラムが分かれます）。



注：サステナブル工学コースでは2年次からカリキュラムが分かれますが、他のコースで学ぶことを体験するために、基礎ゼミ I は履修します。

■ コース配属

基礎ゼミ I 〈2年前期〉では、サステナブル工学コースを除く4つのコースを順番に体験します。その後、コース希望調査を行い、基礎ゼミ II 〈2年後期〉は主選択ゼミ、副選択ゼミの2つのコースのゼミを履修し、実際に半期間、コースでの実践的な学びを経て、3年次以降に所属するゼミを決定します。配属の流れは上の図を参考にすること。

■ 主選択・副選択制度

主選択ゼミの配属は、第1希望を優先します。第1希望者がゼミの定員を上回った場合には、基礎ゼミ I の当該コースの課題の点数で選抜を行います。副選択ゼミの配属は、主選択ゼミの決定後、各ゼミの収容可能人数に応じて、第2希望以下のゼミを考慮して配属します。

3年次に進級するとき、2つのコースのゼミから最終的に自分が所属するゼミを決定します。原則、2年次に主選択としたコースのゼミに所属することになりますが、副選択ゼミが定員を下回っている場合には、副選択コースのゼミに所属することもできます。

5) 4年次 チームで学際的に学ぶ期間、後輩の学びをサポートする期間

知識集約型研究プロジェクトは、教育課程での学びの集大成となる科目です。社会で必要とされる協働作業を実践的に学びます。コースを超えて協働することで、学生一人ひとりの専門性を統合して、社会の抱える問題に対して解決策を考えます。

また専門探究ゼミナールIVでは、後輩の基礎ゼミや専門探究ゼミへ参加してピアサポートを行います。他者の学びを支援する経験を通して、自らの知識や技術を再確認するとともに、他者へ行動変容を促すことを学びます。

6) 1年次～2年次 桐蔭キャラバン

桐蔭キャラバンとは、1～2年次にかけて行われるフィールドスタディ I～IVの総称です。フィールドスタディ I は必修科目、フィールドスタディ II～IVは選択科目ですが、履修することを強く推奨します。各コースで学んできた知識やスキルを活用して、課題解決につながる活動を行い解決策を提案することを目的とする科目です。フィールドでの活動前に課題の仮説を立て、フィールドワークを通じて仮説を修正し、活動後に課題解決につながる内容の発表を行うプロジェクト型科目です。

7 進級と留学について

現代教養学環には留年制度はありません。そのため、各学年での修得単位が18ページの「3. 成績不良学生に対する警告」に示す単位数を下回っていたとしても、進級します。

ただし、「6 現代教養学環独自の4年間の学びの流れ」の説明にある通り、3年次に配当される専門探究ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ及び現代社会の科学、現代社会と学術研究の5科目の単位を修得できなかった場合、4年次に配当される知識集約型研究プロジェクトの履修登録ができません。そのため4年間で卒業までに修得すべき単位を揃えることができず、卒業できません。

8 履修申告について

授業を受けるためには、桐蔭ユニパを通じて受講しようとする授業科目について履修申告をしなければなりません。履修申告は各学期の始めに設けられる手続期間内に行う必要があります。この申告手続をしなければ、履修は認められません。履修申告がないと、たとえ授業に出席し、試験を受けても単位は認定されないので注意してください。また、誤って履修申告した科目もこれと同様に取り扱われるので、履修申告とその確認については、オリエンテーションで説明を受け、授業時間割等を参照して間違いのないように手続をしてください。

必修科目は、配当学年で必ず履修・修得するようにしてください。必修科目の単位を、申告ミス、成績不良、試験の欠席その他の理由で、配当学年中に修得できなかった場合、翌年の時間割では、上級学年に配当される必修科目と時間が重複するために履修できないことがあります。

なお、履修申告期間および履修申告修正期間については、学内の通知を確認してください。

9 履修申告単位数の制限について

1) 上限

学期の履修申告単位数は、24単位を上限とします（ただしIALタームは上限を8単位とします）。これはそれぞれの科目について、単位の真意に鑑み、適切な学習を行う必要があるためです。上限には、体育実技、集中講義期間中に実施される科目、単位認定を受けた科目を含みません。但し特別な事情がある場合には、学務委員会の承認のもと、相当事由のある科目について履修することができます。

2) 下限

学期の履修申告単位数は、10単位を下限とします。但し、3年次・4年次学生については、下限を設けません。

1年次のIALターム^{注1}については、2単位を下限とします。

3) 履修申告の修正について

履修申告修正期間内に、履修登録した科目を修正することができます。履修申告の修正については、学務係の通知およびオリエンテーションで確認をしてください。

4) 履修申告期限内に履修申告をしなかった者について

学務委員会の承認を受けることを条件として、授業開始後3週目までは、履修申告の登録をすることができます。

5) 4年次の履修制限について

4年次のIALタームに開講される科目は、卒業要件単位には含まれません。

注1：IALタームについては、14ページの「5 集中講義及びIALタームについて」を参照すること。

2 授業について

1 授業について

1) 学年および学期

学年は毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終了します。また、3学期制を採用しており、第1学期（4月上旬～7月下旬）と第2学期（9月上旬～12月下旬）は13週間授業、第3学期はインテンスィブ・アクティブラーニング・ターム（IALターム）と呼び、1月～2月に特定の科目を集中して学ぶ期間となります。

前期	第1学期：4月～7月（夏期集中8月）
後期	第2学期：9月～12月
	第3学期（IALターム）：1月～2月

2) 授業時間割

授業は、学期ごとに週単位で決められた授業時間割によって行われます。授業時間割には、曜日と時限によって、授業科目名、担当教員名および授業の場所が一覧表になって記載してあります。

授業時間割の授業時間は、次のとおりです。

時限	1	2	3	4	5
月～土 の時間	8 : 50 } 10 : 35	10 : 45 } 12 : 30	13 : 00 } 14 : 45	14 : 55 } 16 : 40	16 : 50 } 18 : 35

2 授業の欠席について

授業はすべて出席することが原則です。

1) 欠席する場合（感染症は2）、忌引きは3）を参照

病気や怪我、その他の理由によりやむなく授業を欠席し、以下の事由に該当した場合は、「欠席届」等を授業担当教員に提示し報告することができます。

「忌引届」、「感染症罹患届」、「診断・登校許可証明書」の書式は、桐蔭ユニバからダウンロードしてください。

ただし、「欠席届」は欠席理由を明示するものであって、欠席が出席になるわけではありません。扱いについては授業担当教員の判断に委ねられています。

「欠席届」を提出することができる事由

- 学会発表（発表者のみ）
- 学生会公認団体の試合等
- 大学行事等
- 国または都道府県の諸行事や大学代表として派遣される場合
- 通学中、授業中、公認団体での活動中の傷害
- 病気にかかった場合（「2）感染症にかかった場合」も参照）

いずれの場合も大会要項、医師の診断書等、欠席理由・欠席期間を証明する書類を添付すること

(手続方法)

- ① 学務係窓口にて「欠席届」を受け取り、必要事項を記入する。
- ② 記入した「欠席届」を顧問等の教員に提出し、署名および捺印をいただく。
- ③ 欠席した授業の担当教員に「欠席届」を提示して説明する。
 ※授業担当教員から欠席届の提出を求められたときは適宜コピーをとること。

2) 感染症にかかった場合

- ① 学校保健安全法に定められた感染症にかかっていると疑われる場合は通学を見合わせ、速やかに医師の診療を受けてください。診断の結果、感染症にかかっていると診断された場合は直ちに学務係(045-971-1415)に電話で連絡をしてください。医師が通学を許可するまでの期間、出席停止となります。
- ② 医師が治癒したものと診断し通学を許可した場合、医師の署名捺印を受けた「診断・登校許可証明書」を添えて「感染症罹患届」を学務係に提出してください。
 ※「感染症罹患届」「診断書・登校許可証明書」は、桐蔭ユニパからダウンロードしてください。

■ 病名と出席停止の期間

	病 名	期 間
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群※1、中東呼吸器症候群※2、特定鳥インフルエンザ※3	治癒するまで
第2種	新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで
	インフルエンザ (特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳がなくなるまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹 (はしか)	熱が下がって3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発疹が消えるまで
	水痘 (水ぼうそう)	すべての発疹がかさぶたになるまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消失した後2日を経過するまで
第3種	結核、髄膜炎菌髄膜炎	
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症 (溶連菌感染症、マイコプラズマ感染症、流行性嘔吐下痢症など)※4	病状により、学校医・その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで

- ※1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る
- ※2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る
- ※3 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に規定する特定鳥インフルエンザをいう
- ※4 第3種その他の感染症については学校医・大学の判断で出席停止となる場合があります

3) 忌引きの場合

忌引により欠席する場合、次の続柄の親族が亡くなった場合は「忌引届」を提出することができます。提出の際、欠席日を確認できる「会葬御礼」または死亡を確認できる「公的証明書」の写しが必要です。なお、忌引日数は次のとおりです。

※「忌引届」は桐蔭ユニバからダウンロードしてください。

父 母	7日以内	※日数には、土日・祝日を含む連続する期間とします。
祖父母・兄弟姉妹	3日以内	
伯（叔）父母	1日	

3 遅刻について

授業にすべて遅刻せずに出席することが原則です。遅刻が30分を超えた場合には欠席として扱われます。ただし、授業によって異なりますので、授業初回のオリエンテーションで授業担当教員の指示に従ってください。

1) 遅刻する場合

プロジェクト科目、ゼミその他グループワーク等の活動が含まれている授業では、授業開始時刻までに担当教員に連絡すること。

ただし、遅刻が取り消されるわけではありません。扱いについては授業担当教員の判断に委ねられています。

2) 公共交通機関の遅延等について

通学中、電車やバスが何らかの理由により運行できない、もしくは遅延して授業に遅刻・欠席せざるをえない場合は、遅延証明書を駅やバス営業所等からもらい、授業担当教員に自分で報告してください。ただし、遅延証明書を提出しても遅刻が取り消しになったり、欠席が出席になるわけではありません。すべて授業担当教員の判断に委ねられています。

遅延等に備えてあらかじめ迂回ルートを考えておくとよいでしょう。

4 休講と補講

1) 休講

大学または各授業科目の担当教員にやむを得ない事情が発生した場合、授業を休講とすることがあります。休講情報は、掲示およびメール、桐蔭ユニバによって通知します。休講の掲示がなく、授業開始後30分以上経過しても担当教員が入室しない場合は、自然休講とします。また、休講についての電話照会には応じません。

台風接近等により、神奈川県全域または神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に『特別警報』『大雪警報』『暴風警報』または『暴風雪警報』が発令された場合は、原則として休講とします。ただし、当日に警報が解除された場合は次の通りとします。

- ① 当日午前6時までに警報が解除された場合は、平常どおり授業を行う。
- ② 当日午前10時までに警報が解除された場合は、午前中の授業を休講とし、午後から授業を行う。
- ③ 当日午前10時までに警報が解除されない場合は、授業を終日休講とする。

また、授業中に警報の発令があった場合は、学内放送・掲示等で告知しますので、指示に従ってください。

交通機関の運休について

東急田園都市線（渋谷ー中央林間）及び小田急小田原線（新宿ー小田原）が**両線とも**、災害、停電、事故等により運休した場合。

- ① 午前6時に両線とも運休している場合は、午前の授業等を休講とする。
- ② 午前11時に両線とも運休している場合は、午後の授業等を休講とする。

※東急田園都市線及び小田急線以外の交通機関が不通になった場合は、全学休講措置はとりませんが、授業担当者が出校不能で休講となることがあります。

また、代替交通機関が利用できず登校できない場合は、各交通機関で発行している遅延証明書を受け取り、授業に間に合う場合は遅延証明書を授業担当者に渡してください。授業に間に合わない場合は、遅延証明書及び学生証を持参の上、後日学務係窓口に来てください。

その他、不測の事態が発生した場合は学長の判断によります。

なお、定期試験についても上記に準じます。

2) 補講

休講となった講義については、補講または代替レポートがあります。補講の日程・教室（通常その講義で使用している教室でないこともあります）を掲示で確認するようにしてください。

なお、現代教養学環では下記の「補講予定日」を設定しています。「補講予定日」には、補講が行われる可能性があります。土曜日に私生活上の予定を立てる場合には、「補講予定日」を十分に考慮するようにしてください。

「補講予定日」は、各年度の授業予定カレンダーを参照してください。

5 集中講義及びIAL（インテンシブ・アクティブラーニング）タームについて

現代教養学環では、自由に授業時間割を設定できる集中講義期間を活用して、プロジェクト型授業でのイベントの企画・運営や、学外でのフィールドワークを開講しています。また、通常学期中には設定できない連続したコマでのアクティブラーニング型授業、他大学や地方自治体、その他様々な組織・団体に所属する専門家を招いて行われる授業等も、この期間に開講されます。また、1月の授業開始日から2月末日までの期間をIALタームとして設定します。集中講義の科目・日程は、学務係の掲示で発表されます。通例、7月、8月及びIALターム内に集中講義日程が組まれます。3～4日間で、1日4～5コマの連続講義もあれば、週に2コマで6～7週にわたって行われる講義もあります。集中講義の試験は各クールの最後の時間に実施されます。

集中講義の履修登録は、学期後半の指定された期間に行われ、これに遅れると履修できなくなるので注意してください。4年次の履修登録については、10ページの「9 履修申告単位数の制限について」を確認してください。

■ 学務係からの学生への連絡方法

学生の皆さんは、掲示に注意するようにしてください。

休講、補講、集中講義、あるいは試験日程などの授業に関連した一般的な連絡、または、特定の学生に対する呼出し・連絡などは、すべて掲示板を通じて行われます。大学に来たときは習慣としてまず掲示板を見るようにしてください。掲示内容に疑問があれば、ただちに学務係の窓口もしくは担当教員に連絡をしてください。

* 桐蔭ユニバでも休講情報が閲覧できます。

呼出しや、授業連絡、レポート提出などについては掲示板でしか知ることのできない内容も多いので、必ず毎日掲示板を見るようにしてください。

6 緊急時の授業の取り扱い

1) 台風等

台風接近等により、神奈川県全域または神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に『大雪警報』『特別警報』『暴風警報』または『暴風雪警報』が発令された場合は、次のとおりとします。

- ① 当日午前6時までに警報が解除された場合 …… 平常どおり授業を行う。
- ② 当日午前10時までに警報が解除された場合 …… 午前中の授業を休講とし、午後から授業を行う。
- ③ 当日午前10時までに警報が解除されない場合 …… 授業を終日休講とする。

また、授業中に警報の発令があった場合は、指示に従ってください。その他、不測の事態が発生した場合は学長の判断によります。

なお、定期試験についても上記に準じます。

2) 地震

東海地方を中心とする大規模な地震の発生が予想されるときは、「地震防災対策強化地域判定会」（以下「判定会」）が招集され、状況によって内閣総理大臣より「警戒宣言」が発令されます。大学では「判定会」が招集されたことがテレビ・ラジオ等で確認された時点で休校とします。

- ① 在宅中および通学途中においては、各自の判断で行動してください。
- ② 在校中においては、大学からの指示に従ってください。
- ③ 「判定会」が解散されたとき、または「警戒宣言」が解除されたときの授業再開は、
 1. 午前6時より前の場合は、当日の平常授業を行います。
 2. 午前6時を過ぎている場合は休校とし、翌日より平常授業を行います。

※ 常日頃からの防災……『学生便覧』を参照（13 防災について）

3 試験・成績について

1 試験について

試験は、定期試験、追試験、再試験、及び科目によっては臨時試験があり、筆答試験または実技試験により行います。なお、授業科目によっては、レポート、論文、授業内試験、口頭試問等により行うこともあります。

定期試験	<ul style="list-style-type: none">年2回、前期及び後期についてそれぞれ一定の期間を定めて行います。試験を実施する授業科目、日程等は、実施1週間前までに通知します。
追試験	<p>病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受けることができなかった者で、授業科目担当教員が適当であると認め、次の事項に該当する場合には行います。</p> <ul style="list-style-type: none">病気（診断書または本学指定の診断（登校許可）書添付）。 伝染病の場合は伝染病罹患届も提出のこと。不慮の事故及び災害（事故証明添付）。2親等までの親族の死亡（保証人の届出書または忌引届添付）。就職試験および公的な資格取得試験（試験日等を証明する書類添付）。交通機関の遅延等その他やむを得ない理由と認められるとき。 <p>(手順)</p> <ol style="list-style-type: none">① 該当の添付書類を持参し、学務係で1科目につき1枚追試験願を受け取る。② 必要事項を記入し、学務係に提出する。③ 追試験の実施の有無、実施日時等が学務係から連絡がある。 (連絡は、大学が発行しているアドレスに入ります。受信メールがすぐ確認できるように事前に準備しましょう)④ 追試験実施日までに、学務係に追試験許可通知書を受け取りに行く。
再試験	<p>定期試験または追試験で不合格になった者に対し、授業科目担当教員が特に必要と認めた場合に限り行います。なお、1科目につき2,000円の再試験受験料が必要です。</p> <p>(手順)</p> <ol style="list-style-type: none">① 証明書自動発行機で再試験受験料2,000円を納める。② 納入後印刷された再試験願を再試験受験時に授業科目担当教員に提示する。
臨時試験	学期の中途において授業科目担当教員が随時に行う試験です。

■ 受験資格

- 履修する授業科目について履修申告を行い、出席が良好な者で授業科目担当教員が認めた者に限ります。**各科目ごとに受験資格が設けられている場合もありますので、必ずシラバスを確認してください。**
- 当該学期の学費その他納付金の未納者は、いずれの試験も受けることができません。

■ 試験時の心得

- 試験を受ける際は、学生証を机の上に提示してください。**学生証が無いと受験できません。万一忘れた場合には、仮学生証の交付を受けてください（下記の「仮学生証交付の手続方法」参照）。ただし、学生証再交付手続中の場合はこの限りではありませんので学務係で確認してください。
- 試験室への入室（遅刻の限度）は、試験開始後30分までとし、退出は、試験開始後35分を経過しなければ、認められません。

■ 仮学生証交付の手続方法

仮学生証は、有料（200円/日）で、当日限り有効です。

- ① 証明書自動発行機で仮学生証発行申請を行い、200円を納めてください。
- ② 出力された用紙に必要事項を記入し、学務係へ提出。
- ③ 本人確認を行った後、発行印を押印して交付。

不正行為があった場合は、その学期のすべての授業科目の試験が無効になります。
その上、学則に基づく処分を受けることになります。

2 成績評価について

1) S、A、B、C、Dによる評価

- (1) 申告された授業科目の履修成績は、学期末に実施される試験（平素の成績、レポート提出等による場合もある）によって合格か不合格かが認定されます。成績の採点は100点満点で行われ、60点以上を合格とし、その授業科目の単位が与えられます。成績評価の表示はS、A、B、C、及びDによって行われ、その点数区分は以下のとおりです。

S	90点以上100点
A	80点以上90点未満
B	70点以上80点未満
C	60点以上70点未満
D	60点未満（不合格）

- (2) 再試験における成績は、80点未満となります。
- (3) 単位認定科目の評価は、N（合格）またはH（不合格）になります。
- (4) 成績は上記評価により、学期ごとに桐蔭ユニパを通じて閲覧することができます。

2) 成績照会制度

各学期の学期末に交付された成績表に記載された成績評価に疑義がある場合は、成績公開日から2週間以内に限り、成績評価を担当した教員に照会を求めることができます。**照会を求める場合には、学務係に申し出て、所定の手続きを行ってください**（桐蔭ユニパのみで案内されます）。

成績照会制度は、成績評価について学生の言い分を聞き、評価の理由について説明を求める制度で、成績を変更してもらう制度ではありません。制度の趣旨を十分に理解したうえで利用してください。

成績照会請求の期限を過ぎてしまった場合、成績評価は、誤記などの特別の事情のない限り変更されることはありません。

3) GPA (グレード・ポイント・アベレージ) 値による評価

- (1) 本学では、成績評価の基準の一つとして、GPA値を導入しています。就職に際して、企業によっては、S、A、B、C、D評価よりもGPA値が重視される場合もあります。成績通知書には両評価を記載します。複数の成績評価を行うのは、複眼的に自分の成績を管理してもらおうというねらいです。
- (2) GPA値の算出方法は、科目ごとのS、A、B、C、Dの評価を科目GP値に置き換え、その上で各科目GP値に各科目の単位数を乗じたスコアの総和を総登録単位数で除すというものです。GPA値の計算式は次のようになります。

1. 授業科目別評価S、A、B、C、Dを点数(グレード・ポイント:GP)化します。
S-4, A-3, B-2, C-1, D-0

2. GPに授業科目の単位数を乗じ、すべての授業科目の総和を総単位数で割ります(これを、グレード・ポイント・アベレージ:GPAといいます)。

$$GPA = \frac{(GP \times \text{単位数}) \text{の総和}}{(\text{単位数}) \text{の総和}}$$

この基準で計算した場合、GPA値は、履修科目すべてがSであれば4.0になり、履修科目がすべてDであれば0.0となります。

- (3) 成績通知表には、学期ごとに、及び累積で、GPA値の数値として修得単位成績表の中で示されます。努力して良い成績をあげれば、GPAの数値は上昇します。努力を怠れば、GPAの数値は下降します。修得単位数は怠けても減るわけではありませんが、GPA値は怠けると下降します。GPAの数値の変動を確認して、成績を自己管理するように努めてください。注意してほしいのは、履修科目を途中で放棄したり、試験を受けなかったりする場合、D評価が与えられるため、このような科目が多くなるとGPAが低い数値になってしまうことです。したがって、履修申告にあたって、科目の選択を十分に検討し、必要な場合は定められた期間に申告訂正をする必要があります。尚、一度Dとなった科目については、次学期以降再履修で単位を取得した場合でも、一度ついたD=0点は積算GPAではカウントされ続けます。

3 成績不良学生に対する警告

成績不良者に対する警告及び注意は、次の修得単位数未満の学生を対象とします。

事 項		1年次	2年次	3年次	4年次
警 告 基 準	前期末	10	35	70	106
	後期末	20	50	90	—
注 意 基 準	前期末	15	45	80	—
	後期末	30	60	100	—

- (1) 警告該当者には、保証人あてに警告書を通知するとともに、担任による指導が行われます。
- (2) 注意該当者には、担任による指導が行われます。

■ 三者面談

単位の修得状況が芳しくない1年次生、2年次生を対象として、9月と3月に三者面談が実施されます。そこでは、教員、保護者、本人で、なぜ十分に単位を修得できていないのかの原因を分析し、これからの対策、方針について話し合いが行われます。

4 単位認定について

単位認定制度では、文部科学省の定める範囲内で、入学前入学後にかかわらず本学以外の大学等の修得単位60単位（一般教育科目、専門教育科目の順に）までを本学の卒業要件単位として認定します。もっとも、個々の学生の認定単位数は本学に入学する前の学校で修得した科目いかんで異なります。

単位認定については下記の「5 単位認定制度」を参照してください。なお、この一覧は学務委員会、教授会の決定に基づいて追加、修正、変更されることがあります。

5 単位認定制度

単位認定は、原則として24単位を上限とします。

項目	内容	書類の提出																														
放送大学 【手続き：学務係】	放送大学で履修した単位は、一般教育科目として認定されます。但し、放送大学で履修できる授業科目は一定の科目に限ります。詳細は後日掲示します。																															
横浜市内大学間 単位互換制度 【手続き：学務係】	横浜市内大学間単位互換協定参加大学で修得した単位は、一般教育科目として卒業要件単位に認定します。但し、履修希望者は、事前に学務係に申し出た上で、履修指導を受けなければなりません。この制度では、加盟大学の開講科目を履修することができます。尚、1年次生、4年次生（卒業必要単位を修得した者を除く）は履修することができません。成績評価と単位認定は、本学の評価基準に従って行われます。																															
検定・資格 【手続き：学務係】	<p>① 日本語（留学生対象） 日本語能力試験の各級をすでに取得している者は、その級に相当する日本語コースを合格したものとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・N1合格者：「日本語ⅠA～ⅢB」を合格とする（12単位） ・N2合格者：「日本語ⅠA～ⅡB」を合格とする（8単位） ・N3合格者：「日本語ⅠA～B」を合格とする（4単位） <p>② 英語 英検、TOEIC[®]、TOEFL[®]、IELTS[™]において、所定の級、点数を取得した者は、以下の基準でMAST科目として開講される英語コミュニケーションを除く、英語関連の講義・演習科目の単位として認定します。当該年度の対象科目については、学務係に確認をしてください。</p> <p>すでに到達しているレベルに加算される形で、上限を8として単位が認定されます。科目でレベル2までの4単位を修得した後に、英検2級（レベル2）を取得した場合には、追加で単位は認定されませんが、英検準1級（レベル3）を取得した場合には、2単位分が認定されます。</p> <p>ただし、入学後に受験した試験に限ります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>レベル</th> <th>認定単位数</th> <th>英検</th> <th>TOEIC[®]</th> <th>TOEFL[®] (iBT)</th> <th>IELTS[™]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>2</td> <td>1級</td> <td>860～990</td> <td>80～120</td> <td>6.5～9</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td>準1級</td> <td>630～855</td> <td>67～79</td> <td>5.5～6</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td>2級</td> <td>500～625</td> <td>56～66</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>準2級</td> <td>400～495</td> <td>40～52</td> <td>4～4.5</td> </tr> </tbody> </table>	レベル	認定単位数	英検	TOEIC [®]	TOEFL [®] (iBT)	IELTS [™]	4	2	1級	860～990	80～120	6.5～9	3	2	準1級	630～855	67～79	5.5～6	2	2	2級	500～625	56～66	5	1	2	準2級	400～495	40～52	4～4.5	資格取得を証明する書類を添えて、申請期間（各学期の履修申告期間中および各学期の定期試験期間中）に申請してください。
レベル	認定単位数	英検	TOEIC [®]	TOEFL [®] (iBT)	IELTS [™]																											
4	2	1級	860～990	80～120	6.5～9																											
3	2	準1級	630～855	67～79	5.5～6																											
2	2	2級	500～625	56～66	5																											
1	2	準2級	400～495	40～52	4～4.5																											
その他 【手続き：学務担当教員】	<p>① 交換留学 協定に基づく交換留学生として留学した場合、その期間と留学先での修得単位に応じて、相当な範囲で単位を認定します。</p> <p>② このほか、学務委員会が特別に認めた場合に単位認定の対象とすることがあります。</p>	合格証、認定証などを添えて申請書を学務委員会の担当教員に提出してください。																														

1) 短期留学（短期語学研修）について

全学部の学生を対象とした、海外4か国の協定大学等での短期語学研修及び文化体験プログラムです。漢陽大学（韓国）、ウースター大学（英国ロンドン郊外）、ウエスト大学（米国ロサンゼルス）、ボンド大学（豪州ゴールドコースト）から選択できます。

各大学でのプログラムの実施年度は異なります。詳しくは、案内掲示や事前説明会で確認してください。※研修地域・研修先・研修時期は変更・追加の可能性があります。

学費、渡航費等は自費です。滞在は大学周辺の一般家庭にホームステイまたは寮に滞在し、期間は約2～4週間です。留学のプログラムは、語学の授業を受講し、その他の時間で留学先の講義に出席したり、大学側が用意したプログラムへの参加等となります。また、平日の午後及び週末にプログラムごとの各種アクティビティが企画されています。

夏期のプログラム（韓国）に参加する学生は5月頃に、春期のプログラム（英語圏）に参加する学生は10月頃に参加申込み（履修申告）をします。通常の履修申告期間にはウェブ登録を行いません。法学部、医用工学部、現代教養学環の学生はMAST科目の「国際コミュニケーション実習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）」、スポーツ健康政策学部・スポーツ科学部の学生は専門科目の「国際コミュニケーション実習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）」の単位（4単位）となります。

英語圏の留学については渡航までに10回程度、英語村での事前指導があります。また、渡航後に、研修先が発行する成績証明書あるいは修了証明書を提出し、体験プログラムへの参加状況と活動成果の報告・発表を行うことで、単位が認められます。

2) 本学協定大学等との交換留学（1年間または半年）

休学せず、本学協定大学等に留学（交換留学）するものです。語学力はもちろん、コミュニケーション力が一回りも二回りも成長します。帰国後、留学先大学で修得した科目内容により単位を認定します。

【英語圏の大学】

ウースター大学（英国ロンドン郊外）に交換留学を申請することができます。これに申請するにはIELTSの高得点が求められます。また留学先大学の学費は免除されますが、その他の経費は自己負担になります（学部からの推薦が必要です）。

【中国語圏の大学】

法学部では西南政法大学や南京師範大学等中国語圏の大学との交換留学を行っています。これらの大学との協定では、本学へ納入した学費で相手校に留学できます。ただし旅費や滞在費は個人負担となります（学部からの推薦が必要です）。なお中国語を習得するための講義のみの履修でも可能であるため、医用工学部、スポーツ健康政策学部・スポーツ科学部、現代教養学環の学生も留学の機会があります。

【韓国語圏の大学】

スポーツ健康政策学部・スポーツ科学部では慶南大学（韓国）との実績があります。法学部、医用工学部、現代教養学環の学生も応募可能です。大学間の協定によるものなので、本学へ納入した学費で相手校に留学できますが、旅費や滞在費は個人負担となります（学部からの推薦が必要です）。

3) 現代教養学環の留学制度について

国際コミュニケーション学コースでは、コース内で「国際専攻」と「多文化専攻」に分かれ、「国際専攻」において、2年次（アメリカ）と3年次（韓国）の留学が必須となります。留学プログラムは、各自が事前に立てた計画をもとに行うフィールドワークを中心に、語学研修や現地大学が用意したプログラムへの参加等となります。渡航後には、事後指導を4回程度実施し、活動成果の報告・発表を行うほか、プログラムへの参加状況と、研修先が発行する成績証明書あるいは修了証明書を提出することで、単位が認められます。

*留学希望者は、コース担当教員に相談の上、「インテンシブ・イングリッシュⅠ、Ⅱ」を必ず履修すること

*多文化専攻では留学は任意です。

4) 個人による留学について

夏休みや春休みを利用した個人参加による留学、または長期の留学を希望される場合、外部の留学プログラム等を紹介することが可能です。

単位認定を希望する場合には、渡航前に所定の様式をもって学務係にお問い合わせください。その後、各学部の国際交流担当の教員と面談を行います。帰国後に申請した通りの活動に従事したことを証明する書類を提出し、活動成果を報告・発表をすることで、単位（MAST科目「海外実習」、2単位）が認められる場合があります。

5) 学内の取組みについて

交流会館3階に「桐蔭英語村」があります。

ここには常に外国のネイティブスタッフが常駐し、毎日気軽にお喋りやゲームを楽しんだり、好きな時に好きなだけ英会話のレッスン、TOEIC®・文法・読解などの勉強をすることができます。ここは、楽しく、そして自然に英語を使う場として、さまざまな活動を提供しています。

■大学の窓口を通さずに個人で学外の活動に参加する場合

授業や大学の諸窓口（キャリアセンターやボランティア・ラボ、トランジションセンター等）を通さずに、あるいは教員の紹介によらず、個人で以下に示すような活動に参加する場合には、事前に必ず担任に連絡すること。

- インターンシップ^{注1}
- 留学^{注2}
- ボランティア
- その他、学外の人と交流するイベント

注1：インターンシップの内容によっては、単位認定を申請できる場合があります。キャリアセンターに相談してください。

注2：上部の「4) 個人による留学について」を参照してください。

4

卒業について

1 卒業延期制度

4年次生で、卒業に必要な要件を満たすものの、就職活動など正当な理由により、卒業を延期し、引き続き在学を希望する場合は、卒業延期制度を利用することができます。本制度を利用して卒業延期を希望する学生は学務係まで申し出てください。

1) 申請条件

- (1) 卒業に必要な要件を満たす4年次生であること。
- (2) 授業料等納付金を完納していること。
- (3) 引き続き在学することにより在学期間が6年を超えないこと。

※以上の条件を満たしている場合、卒業延期願を提出することができ、その申請に基づき運営委員会が審査し、これを許可します。したがって、上記申請条件を満たしていても、卒業延期が認められない場合があります。

2) 期間

- (1) 卒業に必要な要件を満たした学年の翌年度の1年間。ただし、1回に限り再延長可（最長2年間）。

3) 卒業時期

- (1) 卒業の時期は延長後の在学期間が終了する年度の最終日とします。ただし、卒業延期による在学期間中に事情の変更により前期で卒業を希望する場合は、願い出により9月卒業をすることができます。再延長した場合も同様です。

4) 身分

- (1) 4年次在學生として扱われます。
- (2) 卒業延期を許可された学生は、在學生として扱われます。よって、情報施設や図書館などの諸施設・設備利用、学生証の発行、及び学則に基づく懲戒処分についてもその対象になります。

5) 授業科目の履修

- (1) 授業科目の履修を希望する場合は、年間10単位までの履修が認められます。
- (2) 履修した授業科目は、成績証明書に記載されます。

6) 納付金

- (1) 在籍料10万円を納付期限までに一括で納付してください。
※年額一括納付ですので、事情の変更により前期卒業した場合も納付金は返還されません。
※別途学生グループ保険料が必要です。

7) 手続き

- (1) 卒業延期を希望する学生は、下記の提出期間に「卒業延期願」を学務係窓口に提出してください。
- (2) 運営委員会審査の結果、卒業延期を許可された学生には、在籍料等納付書を送付しませんので、期限までに全額を納付してください。
 ※期限までに納付されなかった場合は、卒業延期の許可を取り消し、卒業に必要な要件を満たした年度（既に卒業延期制度の適用を受けている者にとっては、延長後の在学期間が終了する年度をいう。以下同じ。）の3月末日付の卒業とします。
- (3) 卒業延期を許可された学生が、事情の変更により卒業に必要な要件を満たした年度末で卒業を希望する場合は、下記の提出期限までに「卒業延期許可取消願」を学務係窓口に提出してください。卒業延期の許可を取り消し、卒業に必要な要件を満たした年度末での卒業を認めます。この場合、既納の在籍料は返還します。
- (4) 9月卒業生についても申請条件を満たしていれば、この制度の利用を申請することができます。
- (5) 卒業に必要な要件を満たさなかった場合は留年となり、この制度の適用を受けることはできません。

〈卒業延期制度の日程〉 ※日程の詳細については後日、発表します。

「卒業延期願」提出期間	2月上旬
運営委員会審査	2月下旬
審査結果の通知	3月上旬
「卒業延期許可取消願」提出期限	3月下旬
在籍料納付期限	4月上旬

1 MASTの概要

MASTとは、桐蔭横浜大学の全学部共通で開講される一般教育科目群のことを指します。

MASTは、MAST A、コア科目、5つのコンポ（MAST B、C）とウェルビーイングプログラムから構成されます。自分の興味に合ったコンポを見つけ、そのコンポの科目を中心に履修していくこととなります。コンポは体系立てられた科目群、ウェルビーイングプログラムはコンポを補完し、“なりたい自分”になるために必要なチカラを身につけることを目指す科目群です。

MAST Aは、大学での学びの基礎となる科目です。どのコンポを選択しても、全員が共通して履修することになる科目です。

コア科目は、コンポの基礎知識やモノの見方・考え方を学ぶ科目です。

コンポは、現代社会を読み解くための視点を養うことを目的とした体系的のある科目群で、「地域創成・ビジネス」「異文化スタディ」「現代心理」「地球環境」「アスリート・イン・ソサエティ」の5つから構成されます。桐蔭横浜大学での4年間は、学部の専門科目での学びを通して、専門性を高めると同時に、MASTでは、社会を様々な角度から比較し、課題解決の視点を養うこととなります。

■ 5つのコンポの説明

地域創成・ビジネス	人々が生活する地域・現代社会が抱える課題を理解し、解決に導くための知識を、理論と実践を往還する活動を通して獲得する科目群
異文化スタディ	多様な文化を理解することを通して、グローバル化が進む現代社会の中で自己や自国の文化を相対化して考える視点を獲得する科目群
現代心理	様々なアプローチで心に対して迫ることを経験することを通して、心のありようやメカニズムについての理論を獲得する科目群
地球環境	資源の枯渇や温暖化など地球環境の問題を科学の視点から考察し、豊かで持続可能な未来を模索するための知見を獲得する科目群
アスリート・イン・ソサエティ	選手としてだけでなく、生涯に渡ってスポーツに関わり、スポーツにかかわる諸課題を解決するための知識や技能を獲得する科目群

コンポに含まれる科目は、一つひとつの科目が独立した科目ではなく、上の表に示すように、教育目標を持つ体系立てられた科目群です。そのため、「**8 各コンポで学べること**」に沿って学ぶことで、それぞれのコンポが育成を目指す視点を身につけることができます。自分が興味・関心のあるコンポを学んでみるのも、新しいことに挑戦してみるのもよいでしょう。

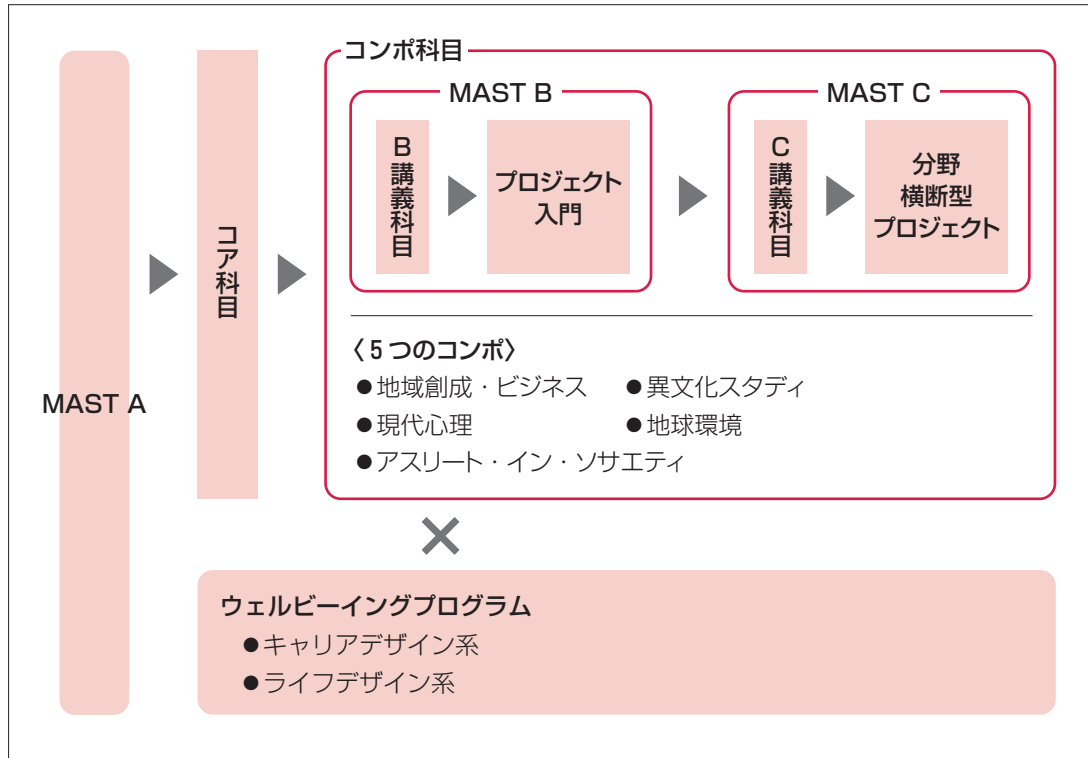
各コンポに含まれる科目はMAST B、Cの2つに分類されます。

MAST Bは、B講義科目、プロジェクト入門から構成されます。プロジェクト入門は、コンポで身につけた知識やモノの見方・考え方を活用して、現実の場面での課題解決を経験的に学ぶ課題解決型学習科目です。

MAST Cは、C講義科目と分野横断型プロジェクトから構成されます。分野横断型プロジェクトはMAST A、Bの科目とC講義科目で身につけたモノの見方・考え方、知識を活用し、現実社会の課題解決に挑む、全てのコンポにまたがって開講される課題解決型学習科目となります。

ウェルビーイングプログラムは、一人ひとりの将来の進路・キャリアを切り開くために必要となる知識や資質・能力を身につけることを目標とする科目群です。5つのコンポとは異なり、ウェルビーイングプログラムの科目は体系立てられた科目ではなく、1つひとつがみなさんの将来に直接つながるチカラを育てることを目標としています。自分の思い描く“なりたい自分”に近づくために、社会で求められるチカラを手に入れましょう。科目を自由に組み合わせて履修をしてください。

その他、既存のカリキュラムの枠にとどまらず、**特別講義**として学外の様々な組織・団体と連携し、専門的な知見を提供してもらうことを目的とする科目や時流に合わせて一定期間のみ開講される科目があります。



2 大学共通の学習支援

大学での学びは、高校生までの学習とは大きく異なります。大学では、自分で好きなことをじっくり学べる反面、**自分から学習に取り組む姿勢が強く求められます**。最初は高校までの学習との違いに戸惑うことも多いと思います。そこで学生のみなさんへの学習サポートとして、桐蔭横浜大学ではラーニング・commonsの開室と全学面談を実施しています。学生に寄り添い、授業や課題で分からない部分のサポートや、学習の仕方・学習スケジュールの立て方を含む、大学での学びに必要な学習サポートを実施しています。困ったり・悩んだりしたときはぜひ自分から行動をしてみてください。大学4年間の学びを充実させるため、積極的に学習支援を活用しましょう。

1) ラーニング・commonsの利用について

ラーニング・commonsは、**II号館2階(II-201)**の教室で学習支援を専門とする職員が常駐しており、いつでも学習の支援を受けることができます。さらにはグループワークスペース・個人利用スペースもあり、用途に応じた使い分けも可能です。先生に質問をしたいときも、みんなでグループワークをするときも、落ち着いて一人で学習したいときも、ぜひラーニング・commonsを利用してみてください。

特に前期の月曜日には「桐蔭スキルゲート」の学習や課題の取り組みに対する支援を中心に、学習支援を受けられます。オンデマンド科目の学習を一人で進めることに不安を感じる人は、ぜひ参加してください。「桐蔭スキルゲート」では、大学生活に留まらず社会人として身につけるべき、文書・資料作成の技術とMicrosoft Officeソフトの操作方法、プレゼンテーションの作法、メディア情報リテラシーについて学びます。これらの知識・技能は、この機会を逃すと、時間をかけて教えてもらったり学習したりすることはほとんどありません。大学4年間の学びを充実したものにするために、学習支援を活用して、しっかりと学習に取り組んでください。

その他、ラーニング・commonsでは、授業のレポートはもちろん資格試験の勉強などでも困ったことがあれば、ぜひ相談しに来てください。



■ラーニング・コモنزの特徴

1. 学習空間	授業の間の時間で利用ができます。空いた時間、友達と一緒に課題をするとき、一人で集中して学習をしたいとき、スタッフに学習について相談したいときなど、いつでも利用できます。
2. 学習相談	大学の学習で困っていることや、課題・学習方法についての相談や、オンライン授業の受け方をラーニング・コモنز専属のスタッフに相談できます。
3. 資格・就職試験対策	SPI試験、教員採用1次試験に向けての支援や、公務員試験・就職対策試験に向けた各自の理解度に合わせた数的処理の指導や、小論文の添削等を実施します。希望者は予約制で別教室での個別指導をします。(ラーニング・コモنزで予約受付を行います)
4. PC操作のサポート	大学でレポートや課題をするときに必須となるPC機器の貸し出しもあります。電源・コンセントも完備しているので、PCが急に必要な場合にも利用できます。PCの操作方法について不安なときには近くにいるスタッフがサポートします。

2) 全員面談の実施について

桐蔭横浜大学では1年生を対象とし、学習支援の一環として学生面談を実施しています。学習面で困っていることから、生活の中で困っていることまで、みなさん一人一人が過ごす大学生活がより充実したものとなるように教職員一同でサポートをしていきます。学習に不安のある学生や、希望をする学生は入学して早い段階から教職員と面談をすることが可能で、その後の面談も希望をすれば何度でも面談を受けることができます。

3 MAST A科目

MAST-A科目は7科目から構成されます。そのなかで、下表の★印の付いた5科目はすべての学部学環の必修科目です。**必修科目**とは、卒業までに必ず修得しなければいけない科目のことです。万が一、配当年次に単位を修得できなかった場合、再履修をしなければいけません。

■MAST-A科目一覧

1年生		2年生	
前期	後期	前期	後期
★桐蔭キャリアゲート	★データコミュニケーション入門	—	—
★桐蔭スキルゲート	—	—	—
★英語コミュニケーションI	★英語コミュニケーションII	英語コミュニケーションIII	英語コミュニケーションIV

1) 桐蔭キャリアゲート

1年生の前期に必ず履修してください。

複数クラスでの開講になります。後日、桐蔭ユニパの掲示をよく読み、自分が参加するクラスを間違えないように注意してください。

ただし、入学前キャリア教育プログラム(桐蔭ブレアド)で修了認定を受けた人は、桐蔭キャリアゲートの単位として認められるため、この科目を履修する必要はありません。途中まで参加したものの、修了認定を受けていない学生は、必ず履修してください(補習対象の学生も同様です)。

2) 桐蔭スキルゲート

1年生の前期に必ず履修してください。

この科目はオンデマンド科目です。桐蔭ユニパ上では月曜日6限に割り当てられていますが、教室での対面授業はありませんので注意してください。初回配信日に学習の進め方について必ず確認をするようにしてください。学習の進め方や課題への取り組み方がわからない場合には、II号館2階のラーニング・コモンズでの学習支援を利用することができます。

3) データコミュニケーション入門

1年生の後期に必ず履修してください。

複数クラスでの開講になります。後日、桐蔭ユニパの掲示をよく読み、自分が参加するクラスを間違えないように注意してください。

4) 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ

1年生の前期にⅠを後期にⅡを必ず履修してください。各学部で指定されるクラスの時限で履修してください。

4 コア科目

コア科目は、コンポの入門科目として各領域における学びの基礎となる知識やモノの見方・考え方を学ぶ科目です。コンポでの学びを修めようとする場合には、コア科目から履修することを強く推奨しています。

■ 科目一覧

コア科目	現代教養の科学A・B・C
------	--------------

5 MAST B科目

B講義科目



プロジェクト入門

※B講義科目で学んだ知識を活用して課題解決に取り組みます。

MAST B科目はB講義科目、プロジェクト入門から構成されます。「8 各コンポで学べること」を参考にして、履修計画を立ててください。同一コンポで、B講義科目からプロジェクト入門までを合わせて履修することで、各コンポで育成を目指す視点を身につけることができます。

1) B講義科目

B講義科目は、コア科目で身につけた知識やモノの見方・考え方を基に、各領域における重要なトピックについて学ぶ科目です。複数科目を合わせて履修することで、幅広い知識と多角的な思考を身につけることができます。

一部の科目は、オンデマンド授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業です。対面授業は2コマ連続で行われるものや集中講義期間に開講されるものがあります。時間割表を確認して履修してください。

2) プロジェクト入門

プロジェクト入門は、コンポで身につけた知識やモノの見方・考え方を活用して、現実の場面での課題解決を経験的に学ぶ課題解決型学習科目です。そのため、プロジェクト入門を履修する際には、コア科目に加えて、B講義科目を1科目以上修得している（あるいは同学期に履修している）ことが望ましいです。

プロジェクト型学習とは、身の回りの出来事や社会にある問題・課題の解決のために、他の授業で身につけた知識や技術を総動員して臨む学習形態の科目のことです。そのため、自ら課題を発見し、その解決のために調査計画や解決策を企画し、実行に移すという一連のプロセスに積極的に参加することが求められます。

6 MAST C科目



MAST C科目はC講義科目、分野横断型プロジェクトから構成されます。MAST Bで学んだことをさらに発展させて、その分野の理解を深めることを目指した科目群です。

1) C講義科目

C講義科目は、各領域における発展的な知識やモノの見方・考え方を身につけることを目指す科目です。MAST Bで学んだことを前提に授業が行われる場合があります。そのため、コア科目に加え、同一コンポのB講義科目を履修していることを強く推奨します。

2) 分野横断型プロジェクト

企業や団体、地域社会に関する諸課題に対し、各コンポのMAST BやC講義科目で学んだ知識やスキルを横断して活用しながら、課題を発見して最終的に解決策を提案することを目指す科目です。

この科目は2学期から3学期にまたがって開講されます。最後まで履修をしない場合、単位が認められませんので注意してください。

また、分野横断型プロジェクトを履修する場合には、1つ以上のプロジェクト入門を履修し、プロジェクト型学習の進め方について理解した上で履修してください。

7 ウェルビーイングプログラム

1) キャリアデザイン系

社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための知識や技能を獲得する科目群です。就職支援科目である「キャリアセミナー」は各学部での指導にしたがって履修してください。

● インターンシップ

企業での短期間のインターンシップへの参加と、事前事後研修および成果報告会へ参加することで単位が付与されます。インターンシップへの申し込み手続き等の詳細は、キャリアセンター（I号館2階）に問い合わせてください。就職活動の前に、企業で働くということがどういうことなのかを経験的に学べる機会です。ぜひ、積極的に制度を利用しましょう。

2) ライフデザイン系

社会のなかで自己実現を目指すだけでなく、他者と良好な関係を気づき、社会の発展に貢献するために必要となる知識や資質・能力を身につけることを目指す科目群です。学外での実習や、通常の履修登録とは異なる方法で申し込みが必要な科目がありますので、注意してください。

● ボランティア実習

大学が案内する様々な実習先でのボランティアに参加する授業です。履修には、ボランティア論の単位を修得している、あるいは当該学期に履修をしていて単位修得見込みである必要があります。実習へ参加を希望する場合には、必ずボランティア論を履修してください。ボランティア実習は実習先が異なる場合には、複数回の履修が可能ですが、修得可能な単位数の上限は6です。

なお、授業や単位に関係なくボランティアに参加をしたい人は、ボランティア・ラボ（II号館2階）に相談できます。

● 海外実習、国際コミュニケーション実習

海外への留学に興味がある学生は、ぜひ積極的に履修をしてください。詳細は、学生便覧または各学部の履修の手引きを確認するか、国際交流担当の教員に確認をしてください。

ただし、国際コミュニケーション実習については、スポーツ科学部の学生は専門科目で同名の授業を履修してください。

※ウェルビーイングプログラムの科目については、特に履修上の注意を要する科目についての説明のみ掲載しています。各科目の概要についてはシラバスをよく読んで履修をしてください。

8 各コンポで学べること

MASTでは、各コンポに含まれる科目を体系立って学ぶことで、それぞれのコンポが育成を目指す視点を身につけることができます。そのため、MASTでは科目をバラバラに履修するのではなく、各コンポの科目をまとめて履修することを推奨しています。また、どのコンポを選択しても、MAST Aの必修科目は全員が履修することになります。

コア科目は、コンポの基礎知識やモノの見方・考え方を学ぶ科目です。コンポでの学びを修めようとする場合には、必ず履修してください。プロジェクト入門は、コンポで身につけた知識やモノの見方・考え方を活用して、現実の場面での課題解決に取り組みます。そのため、プロジェクト入門を履修する際には、コア科目に加えて、B講義科目を1科目以上修得している（あるいは同学期に履修している）ことが望ましいです。

■ 科目一覧

コア科目	現代教養の科学A・B・C
------	--------------

以下、5つのコンボそれぞれで、どのようなことを学ぶのか、そしてどのような人に履修をしてほしいのかを説明しています。履修の参考にしてください。

1) 地域創成・ビジネスコンボ

人々が生活する地域・現代社会が抱える課題を理解し、解決に導くための知識を理論と実践を往還する活動を通して獲得する科目群。地域社会には、都市・都市郊外・地方と様々な形の地域があります。日本では、現在、少子高齢化、過疎化など多くの人口面の課題やインフラ面の課題を抱えているため、地域行政のあり方を問い直し、地域住民・自治体・地元企業との関係を意識することが重要です。地域社会の課題をより深く考えてみたい、また自分の住む地域の課題を考えてみたい人におすすめします。特に、地域に貢献したい、地元の自治体や企業に就職したい、など地域社会との共生に興味がある方の履修をすすめます。

地域に関連する学問として、MAST B科目までを履修することで、地域を社会学の視点から捉えることが可能になるほか、世界から見た日本社会・自分の地域などミクロの視点、自分の住む地域から見た世界の状況などマクロの視点を学ぶことができます。また、地域が持続可能な社会として社会機能を維持するための健康の視点、SDGsの視点など、より専門的な見地からの地域社会の構造について学ぶことができます。

さらに、地域課題を実践的に解決するために活動を伴いながら学びたい人は、MAST C科目まで履修してください。フィールドワークを通じた様々な地域の方々との交流や、自治体・企業の方へのプレゼンなど、自分のライフキャリアを充実させ、社会に役立つ力を身につけることを目指します。

■ 科目一覧

B講義科目	サステナブル社会学、地域における健康課題、コミュニティ・ファシリテーション
プロジェクト入門	プロジェクト入門（地域創成・ビジネス）
C講義科目	地域政治論、地域観光事業論、横浜地域学、実践地域創成学、ウェブ・コミュニケーション、現代ビジネス論

2) 異文化スタディコンボ

多様な文化を理解することを通して、グローバル化が進む現代社会の中で自己や自国の文化を相対化して考える視点を獲得する科目群。ここでいう「文化」とは、一定の社会集団の中で共有される考え方や価値基準、行動様式の体系のことを指しています。例えばみなさんは「日本文化」「日本語文化」「学校文化」などの中で日々過ごしていることになります。そして「異文化」とは、みなさんがまだ知らない、あるいは所属していない文化を指すと思ってください。それらの異文化を理解することで、みなさんの視野は格段に広がっていきます。あらゆる未知のものごとへの好奇心が強い人におすすめします。将来の可能性を最大限に広げ、選択肢を増やすために、異文化スタディの各科目が役に立つでしょう。

MAST B科目までは、みなさんの表現手段を拡張することに力点をおいています。日本語や日本文化だけでなく各国の文化を理解すること、さらには言語だけでなくコミュニケーションの手法を学ぶこと、映像・映画などグローバルな視覚文化へ目を開くことなど、異文化への入り口となる科目を配置しています。ひとつの文化は、様々な要素がからみあって構成されているものですが、その“他者”の立場から入って、構造を少しずつ解きほぐしていきます。国籍・人種・言語もことなる様々な人たちが行き交う社会に対応する手つきを学び、ボーダーレスな2020年代以降を生きるための科目です。

さらに「文化」を広く、また深く学びたいと思う場合には、MAST C科目まで履修することをすすめます。ここではいわゆる王道のカルチャーだけでなく、POPミュージックやファッション、またフード（食文化）や若者文化といったカウンターカルチャー・サブカルチャーなどとも言われる領域にまで射程を伸ばしています。将来の仕事として旅行・観光、レコード会社、芸能プロダクション、映画会社、番組製作会社、出版社、ファッション業界、フードビジネス等を考えている人の受講を想定しています。

■ 科目一覧

B講義科目	言語文化論、表現とコミュニケーション、視覚文化論
プロジェクト入門	プロジェクト入門（異文化スタディ）
C講義科目	異文化リサーチ、ファッション文化論、フード文化論、若者文化論

3) 現代心理コンボ

様々なアプローチで心に対して迫ることを経験することで、心のありようやメカニズムについての理論を獲得する科目群。心を学ぶということは、自分自身についての理解を深めるとともに、対人関係を充実させることにも役立つでしょう。心理学とは、どういう学問かを知りたい、心理学の知識を日常生活や将来のキャリアに役立てたいと思っている人におすすめします。特に、将来、人とのコミュニケーションが求められる仕事や、対人援助・支援サービスを提供する医療・福祉・教育業界に興味・関心のある人に履修をすすめます。

心理学は、心と行動の科学と言われます。MAST B科目まで履修することで、心理学では心をどのように捉えようとしているのか、心というものがどのような要素で成り立っていると考えられているのか、また、心理学が人の行動をどのように捉えているかを知ることができます。現代心理コンボの各授業では、私たちの身近な事柄を心理学的視点から新たに見ることによって、生活に心理学がどのように活用できるのかを考えていきます。

さらに、身の回りの社会課題を解決するために心理学を役立てたいと思っている人はMAST C科目まで履修をしてください。心理学の基礎を学ぶことを通して、心理学が私たちの生活の様々な場面でどのように使われているのかを知り、それらの理解を自分の生活や社会での問題発見・解決に役立てられるようになることを目指します。

■ 科目一覧

B講義科目	健康と心理学、こころの世界、青年と心理学
プロジェクト入門	プロジェクト入門（現代心理）
C講義科目	集団と心理学、幸せと心理学、意思決定と心理学、自己調整と心理学

4) 地球環境コンボ

資源の枯渇や温暖化など地球環境の問題を科学の視点から考察し、豊かで持続可能な未来を模索するための知見を獲得する科目群。環境化学とエネルギー科学を学ぶことで、地球環境についての議論を行い、信頼できる根拠に基づいた論理的な考え方や方法を身につけることを目指します。論理的な思考を身につけることで、物事を正確に分析し、問題をより効果的に解決することに役立ちます。論理的思考能力を身につけたいが何を取り組んだら良いかわからない方の入門としておすすめします。

地球環境科学に関連する課題を特定し、仮説を立てて調査を行う一連の活動をプロジェクト型学習で行います。MAST B科目まで履修することで、地球環境を題材として課題を設定し、解決策を探

索することで、自分たちで問題解決のプロセスを学ぶことができます。それにより、現実的な問題提起の手法やその解決手段の考え方を身につけることができます。

■ 科目一覧

B講義科目	科学技術の未来、地球と環境
プロジェクト入門	プロジェクト入門（地球環境）

5) アスリート・イン・ソサエティコンボ

アスリート（選手）としてだけでなく、生涯に渡ってスポーツとかかわり、スポーツと社会の関係を考える科目群。

目まぐるしく変化している現代社会の中で、改めてアスリートとして生きていくことやスポーツの持つ意義が見直されています。「アスリートとは何か」というテーマを軸に、アスリートとしての生き方、スポーツに関わる生き方について多角的な視点から学びます。また、スポーツを「する・みる・ささえる」という観点から学び、アスリートとして自身の競技力の向上だけでなく、アスリートやスポーツとの関わり方を多面的に捉え、アスリートやスポーツを支える側の諸課題について様々なアプローチから学習します。つまり、社会の中で活躍するアスリートのあり方（Athlete In Society）を学ぶ科目群です。

これまでのアスリート（選手）として、あるいはスポーツ経験者、スポーツに興味のある者として経験してきたことを学問的に振り返り、これからの自身のアスリート（選手）としての向上やチームにおけるリーダーシップの発揮、アスリートを育てるコーチングなどに活用できるようにします。また、大学卒業後や競技引退後を見据え、大学での学び（通常授業やプロジェクト授業）と同時進行で、アスリートとしてのライフスキルの獲得やセカンドキャリアの構築を目指します。さらに、社会とつながる実践的な学びを通して、スポーツが人々にもたらす可能性を追求していきます。

「これまで」と「これから」のアスリート（選手）として、獲得した知識や経験を自分の人生に活かしたいと思う人、またスポーツに関わって行きたい人に履修をすすめます。

■ 科目一覧

B講義科目	大学スポーツ論、アスリートキャリア、スポーツアナリティクス概論
プロジェクト入門	プロジェクト入門（アスリート）
C講義科目	アスリートクロス、アスリートクロスⅡ、アスリートのリーダーシップ
MAST特別実習	地域部活動指導講座Ⅰ・Ⅱ

6

現代教養学環教育課程表

現代教養学環教育課程表①

●…必修 △…選択必修 ▲…必須 ○…選択

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年	4年(予定)	備考	
一般教育科目	MASTA	桐蔭キャリアゲート	2	講義	●				
		桐蔭スキルゲート	2	講義	●				
		データコミュニケーション入門	2	講義	●				
		英語コミュニケーションⅠ	2	講義	●				
		英語コミュニケーションⅡ	2	講義	●				
		英語コミュニケーションⅢ	2	講義		○			
		英語コミュニケーションⅣ	2	講義		○			
	コア科目								
		現代教養の科学A	2	講義	●				
		現代教養の科学B	2	講義	●				
		現代教養の科学C	2	講義	●				
	地域創成・ビジネスコンボ								
		サステナブル社会学	2	講義	○				
		地域における健康課題	2	講義	○				
		コミュニティ・ファシリテーション	2	講義	○				
	異文化スタディコンボ								
		言語文化論	2	講義	○				
		表現とコミュニケーション	2	講義	○				
		視覚文化論	2	講義	○				
	現代心理コンボ								
		健康と心理学	2	講義	○				
		こころの世界	2	講義	○				
		青年と心理学	2	講義	○				
	地球環境コンボ								
		科学技術の未来	2	講義	○				
		地球と環境	2	講義	○				
		持続可能な開発と法	2	講義	○				
	アスリート・イン・ソサエティコンボ								
		大学スポーツ論	2	講義	○				
		アスリートキャリア	2	講義	○				
		スポーツアナリティクス概論	2	講義	○				
		体育実技Ⅰ	1	実験・実習	○				
	体育実技Ⅱ	1	実験・実習	○					
MASTC	アスリート・クロス	2	講義		○				
	アスリート・クロスⅡ	2	講義		○				
	アスリートのリーダーシップ	2	講義		○				

現代教養学環教育課程表②

●…必修 △…選択必修 ▲…必須 ○…選択

科 目 区 分	授 業 科 目 の 名 称	単 位	授 業 形 態	1 年	2 年	3 年	4 年 (予 定)	備 考
一 般 教 育 科 目	プロジェクト科目							
	MASTB	プロジェクト入門	2	演習	△			注1
		プロジェクト入門(現代社会)	2	演習	●			
	MASTC	分野横断型プロジェクト	3	演習		●		

注1：プロジェクト入門は5つのコンボがテーマを設定し、それぞれに授業が開講されます(年度によって開講される授業は異なります)。詳細は、授業時間割を確認してください。

科 目 区 分	授 業 科 目 の 名 称	単 位	授 業 形 態	1 年	2 年	3 年	4 年 (予 定)	備 考	
一 般 教 育 科 目	ウェルビーイングプログラム								
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン 系	桐蔭キャリアゲートⅡ	2	講義	△				
		キャリアセミナーⅠ	2	講義		△			注2
		キャリアセミナーⅡ	2	講義		△			
		キャリアセミナーⅢ	2	講義			△		
		インターンシップ	2	実験・実習		○			
		ソーシャルコミュニケーション	2	講義		○			
	ラ イ フ デ ザ イ ン 系	ことばのスキル	2	講義	△				
		ボランティア論	2	講義	○				
		ボランティア実習	2	実験・実習	○				注3
		国際コミュニケーション実習Ⅰ	4	実験・実習	○				注4
		国際コミュニケーション実習Ⅱ	4	実験・実習	○				注4
		国際コミュニケーション実習Ⅲ	4	実験・実習	○				注4
		海外実習	2	実験・実習		○			注5

注2：本科目は通年科目(前期、後期にまたがって開講される科目)である。途中で履修取り消しを行うことはできないため、後期の時間割も確認の上、履修登録を行うこと。成績は、後期の成績発表時に公開される。

注3：「ボランティア実習」の履修を希望する場合には、「ボランティア論」の単位を修得していなければいけません(単位修得見込み者も含む)。「ボランティア実習」は実習先が異なる場合には、複数回の履修が可能ですが、修得可能な単位数の上限は6です。詳しくは、「ボランティア論」の担当教員に確認をしてください。

注4：大学が提供する短期の語学研修に参加し、要件を満たすことで単位が認められます。詳しくは、20ページの「6 留学制度について」の「1) 短期留学(短期語学研修)について」を参照してください。

注5：個人で参加する留学について、単位認定を申請できる場合があります。詳しくは、21ページの「6 留学制度について」の「4) 個人による留学について」を参照してください。

科 目 区 分	授 業 科 目 の 名 称	単 位	授 業 形 態	1 年	2 年	3 年	4 年 (予 定)	備 考
一 般 教 育 科 目	特別講義							
		MAST特別実習	1	実験・実習	○			注6
		MAST特別講義	2	講義	○			注6

注6：年度によって開講される科目が異なります。詳細は、各年度の授業時間割を確認してください。

現代教養学環教育課程表③

●…必修 △…選択必修 ▲…必須 ○…選択

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年	4年(予定)	備考
専門教育科目	学環基礎科目	ロジカルライティング	2	講義		●		
		ロジカルコミュニケーション	2	講義		●		
		デジタルスキル	2	講義		△		注1
		データコミュニケーション	2	講義		△		注1
		フィールドスタディⅠ	1	実験・実習	●			
		フィールドスタディⅡ	1	実験・実習	○			
		フィールドスタディⅢ	2	実験・実習		○		
		フィールドスタディⅣ	1	実験・実習		○		
		現代社会の科学	2	講義			▲	
		現代社会と学術研究	2	講義			▲	

学環専門科目	コース基礎・発展科目	地域社会学コース						
		地域政治論	2	講義		○		
		地域観光事業論	2	講義		○		
		横浜地域学	2	講義		○		
		実践地域創成学	2	講義		○		
		地域社会学研究法	2	講義			△	注2
		行政学	2	講義			○	
		政治学	2	講義			○	
		地方自治法	2	講義			○	
		地域共生論	2	講義			○	
		地域共生実践	2	講義			○	
		マーケティング学コース						
		ウェブ・コミュニケーション	2	講義		○		
		現代ビジネス論	2	講義		○		
		マーケティング学研究法	2	講義			△	注2
		会計学	2	講義			○	
		租税法	2	講義			○	
		広告論	2	講義			○	
		スポーツマーケティング論	2	講義			○	
		スポーツマネジメント論	2	講義			○	
		国際コミュニケーション学コース						
		異文化リサーチ [フランス語圏文化スタディーズ]	2	講義		○		
		ファッション文化論 [英語圏文化スタディーズ]	2	講義		○		
		フード文化論 [イスラム圏文化スタディーズ]	2	講義		○		
		若者文化論 [東アジア文化スタディーズ]	2	講義		○		
		インテンシブ・イングリッシュⅠ	2	講義	○			
		インテンシブ・イングリッシュⅡ	2	講義	○			
		国際フィールドスタディA	2	実験・実習		○		
		国際フィールドスタディB	4	実験・実習			○	
		国際コミュニケーション学研究法	2	講義			△	注2
		言語文化交流論	2	講義			○	
		国際観光論	2	講義			○	
国際交流論	2	講義			○			
比較政治制度論	2	講義			○			
国際政治論	2	講義			○			

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年	4年(予定)	備考	
学環専門科目	心理学コース								
	集団と心理学	2	講義		○				
	幸せと心理学	2	講義		○				
	意思決定と心理学	2	講義		○				
	自己調整と心理学	2	講義		○				
	心理学研究法	2	講義			△		注2	
	法哲学	2	講義			○			
	市民形成論	2	講義			○			
	心理統計解析	2	講義			○			
	社会・文化と心理学	2	講義			○			
	統合医療学概論	2	講義			○			
	サステナブル工学コース								
	コース基礎・発展科目	数学Ⅰ	2	講義		○			
		物理Ⅰ	2	講義		○			
		化学	2	講義		○			
		数学Ⅱ	2	講義		○			
		物理Ⅱ	2	講義		○			
		有機化学基礎	2	講義		○			
		物理化学Ⅰ	2	講義		○			
		分析化学	2	講義		○			
		機器分析化学	2	講義		○			
		基礎光学	2	講義		○			
		サステナブル工学研究法Ⅰ	2	講義			△		注2
		サステナブル工学研究法Ⅱ	2	講義			△		注2
		無機化学Ⅰ	2	講義			○		
		無機化学Ⅱ	2	講義			○		
		有機化学Ⅰ	2	講義			○		
		有機化学Ⅱ	2	講義			○		
		高分子化学	2	講義			○		
		物理化学Ⅱ	2	講義			○		
		力学	2	講義			○		
		電気化学	2	講義			○		
		電気工学	2	講義			○		
		電磁気学	2	講義			○		
界面科学		2	講義			○			
環境分析学		2	講義			○			
都市と防災	2	講義			○				
演習	基礎ゼミナールⅠ	2	演習		▲				
	基礎ゼミナールⅡ	2	演習		▲			注3	
	専門探究ゼミナールⅠ	2	演習			●			
	専門探究ゼミナールⅡ	2	演習			●			
	専門探究ゼミナールⅢ	2	演習			●			
	専門探究ゼミナールⅣ	2	演習			●	●	注4	
	知識集約型研究プロジェクトⅠ	4	演習				●		
	知識集約型研究プロジェクトⅡ	6	演習				●		

注1：「デジタルスキル」、「データコミュニケーション」のどちらか一方を履修すること。

注2：選択したコースの研究法を必ず履修すること。ただし、サステナブル工学コースについては、Ⅰ・Ⅱの両方を履修すること。

注3：基礎ゼミナールⅡは、コースごとに開講されます。選択を希望するコースのゼミを含む2つ以上の基礎ゼミナールⅡを履修すること。

注4：サステナブル工学コースのみ3年次に履修すること。

2026年度

資料編

校舎平面図

40

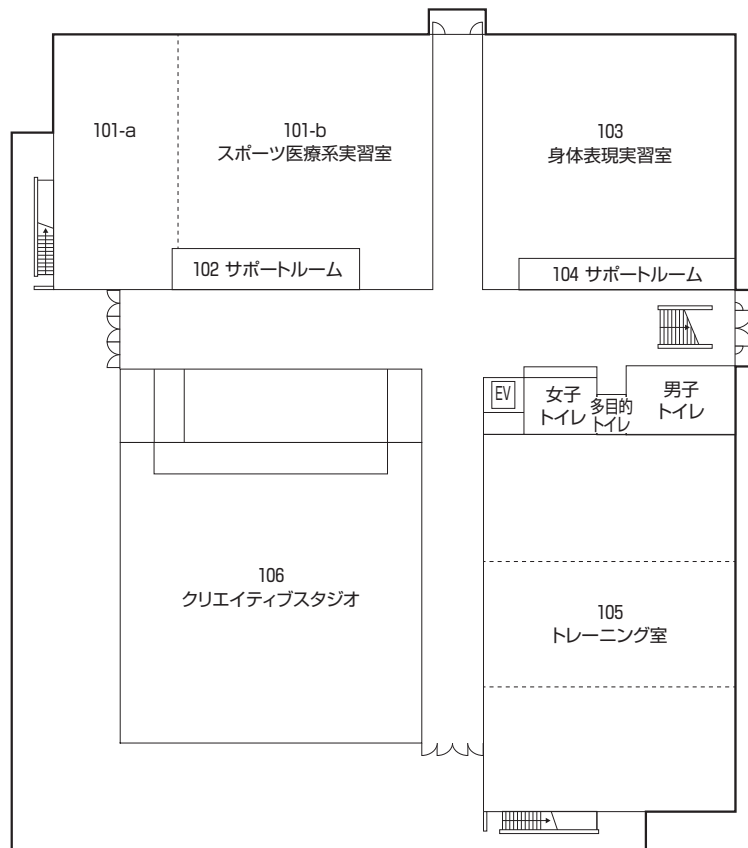
キャンパスマップ

58

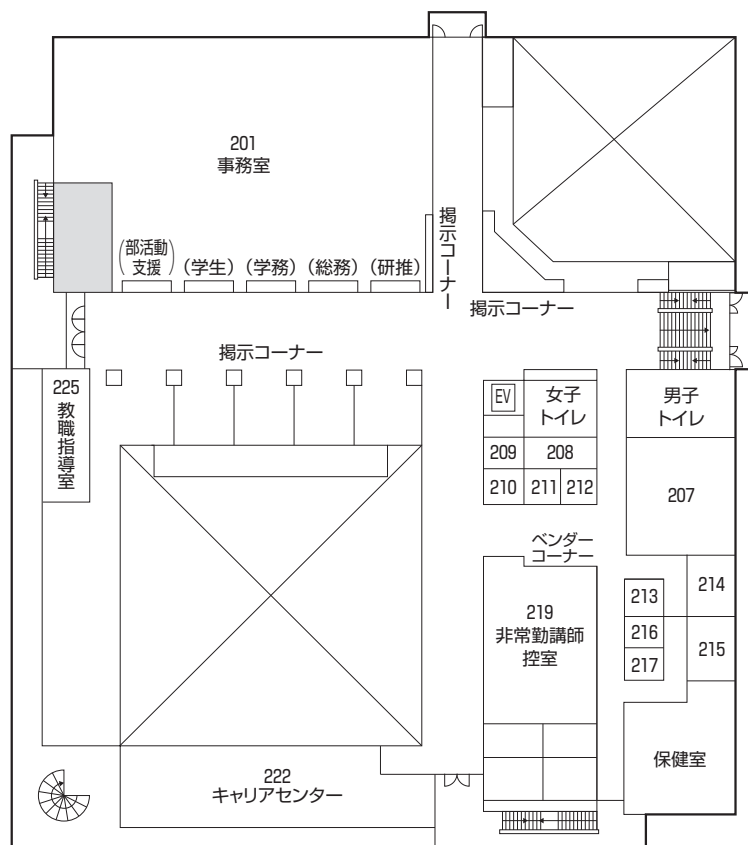
校舎平面図

I号館

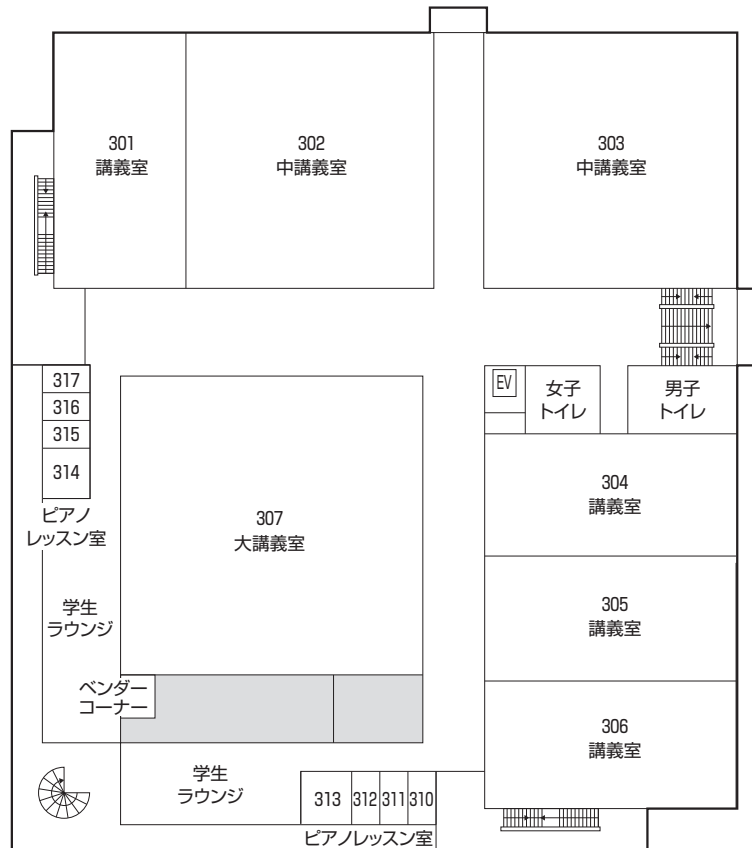
<1階>



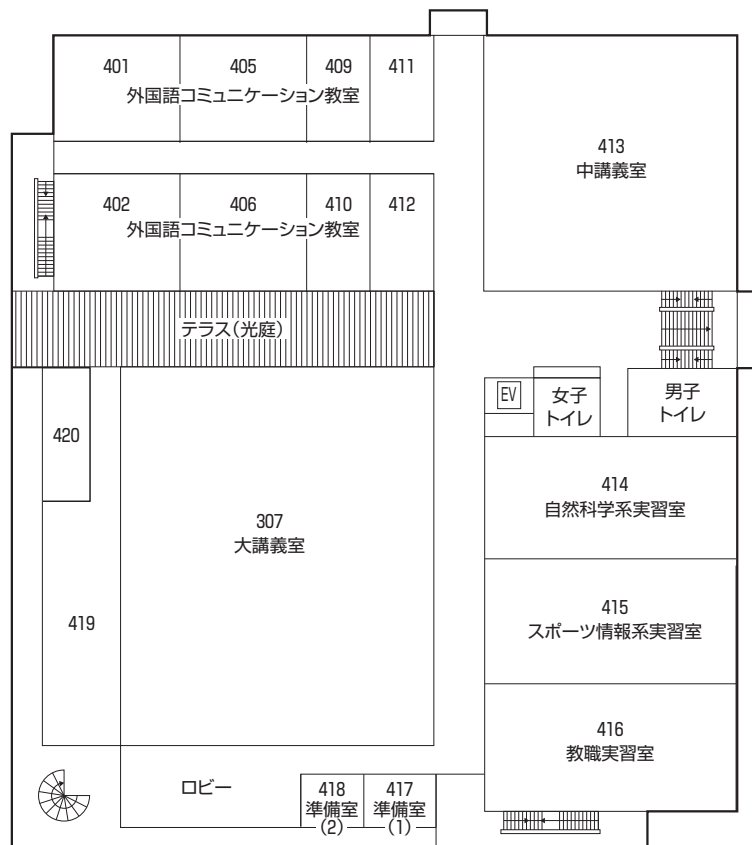
<2階>



〈3階〉

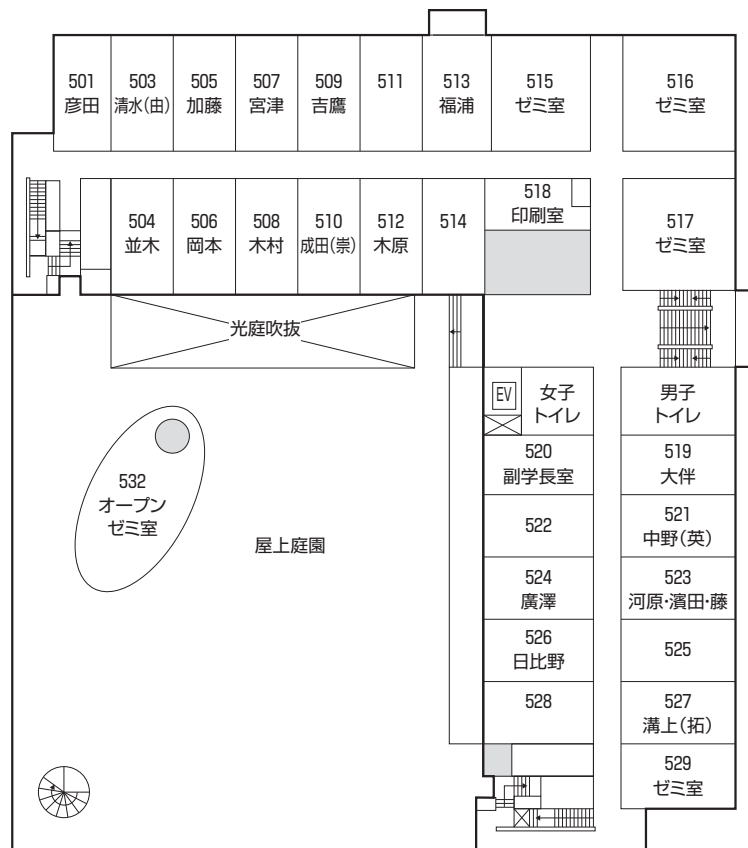


〈4階〉

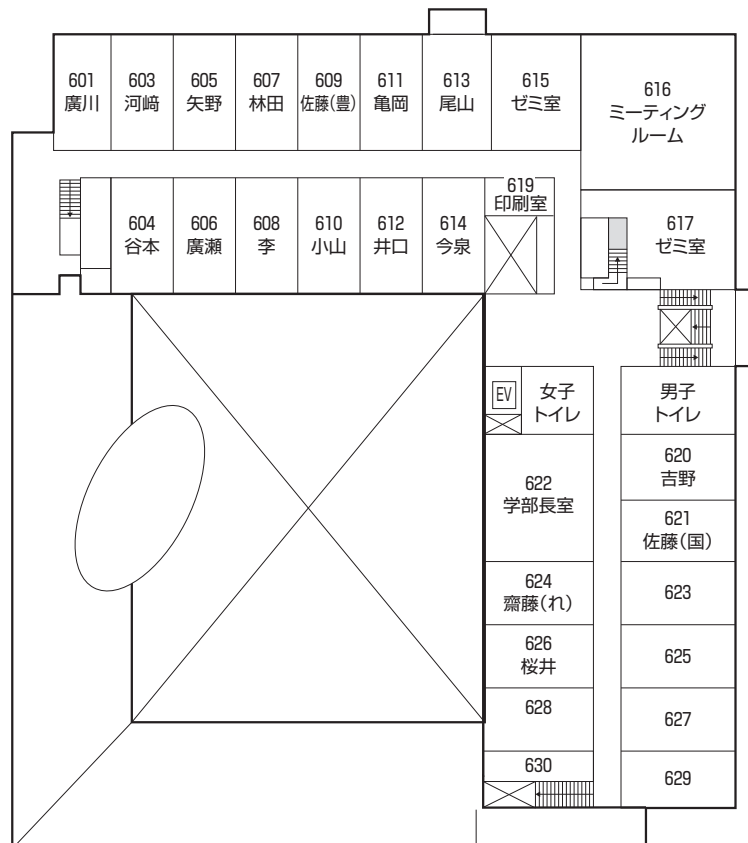


※学生が利用しない場所は
アミがけにしてあります。

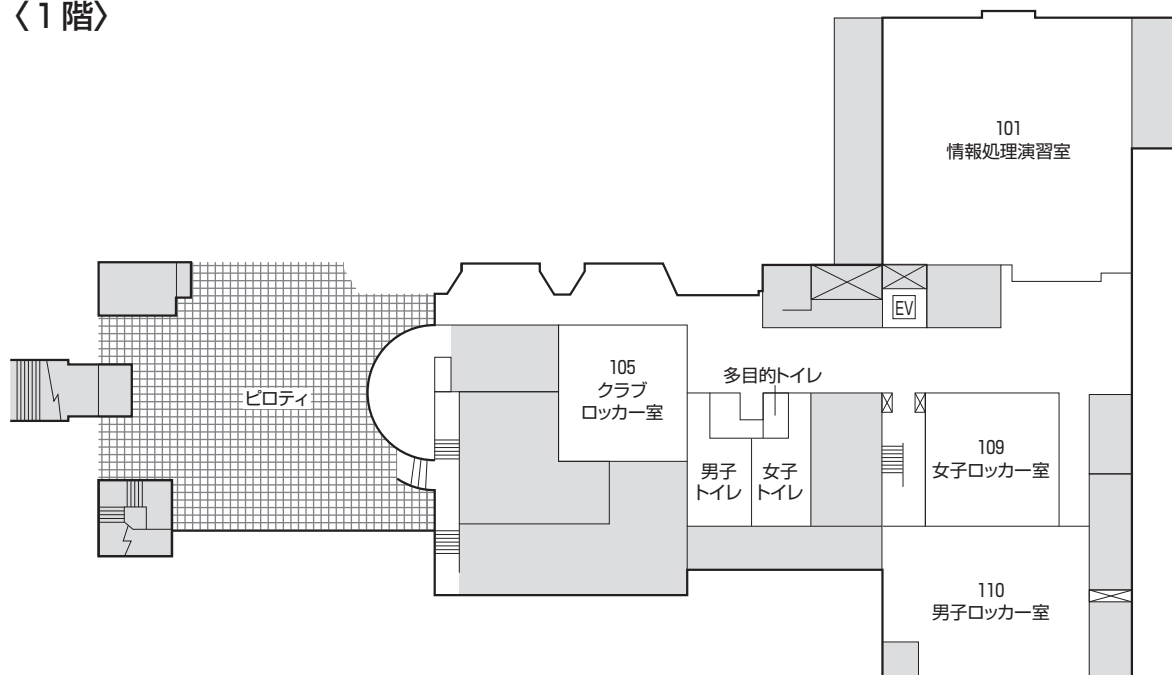
< 5階 >



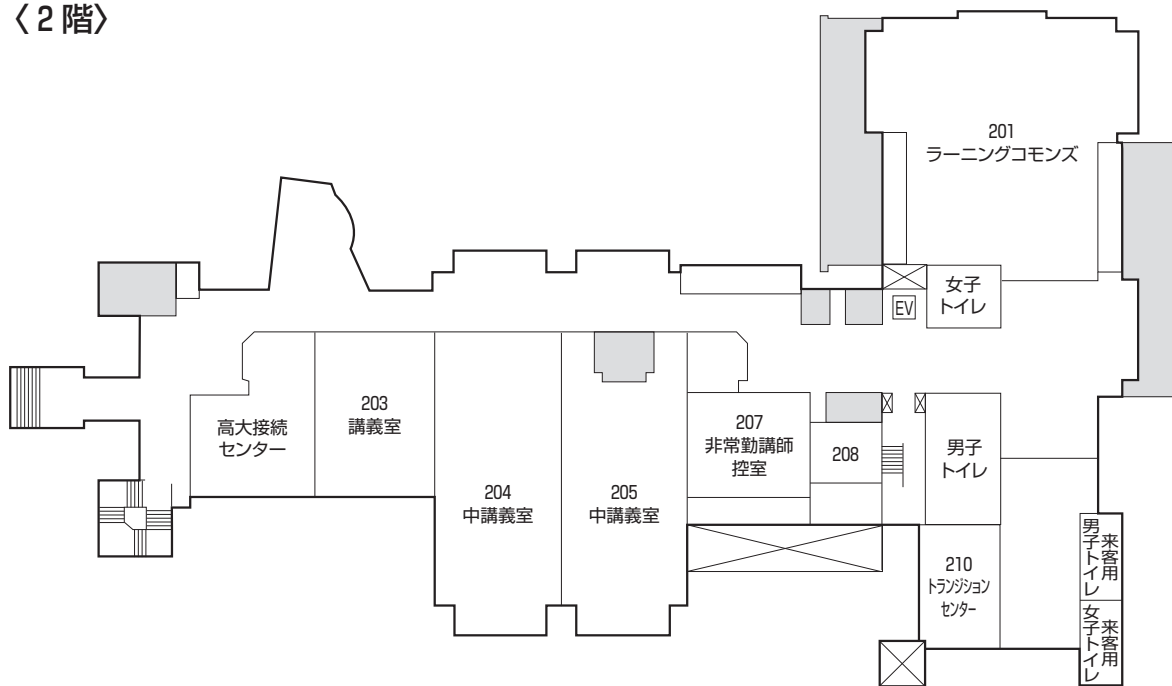
< 6階 >



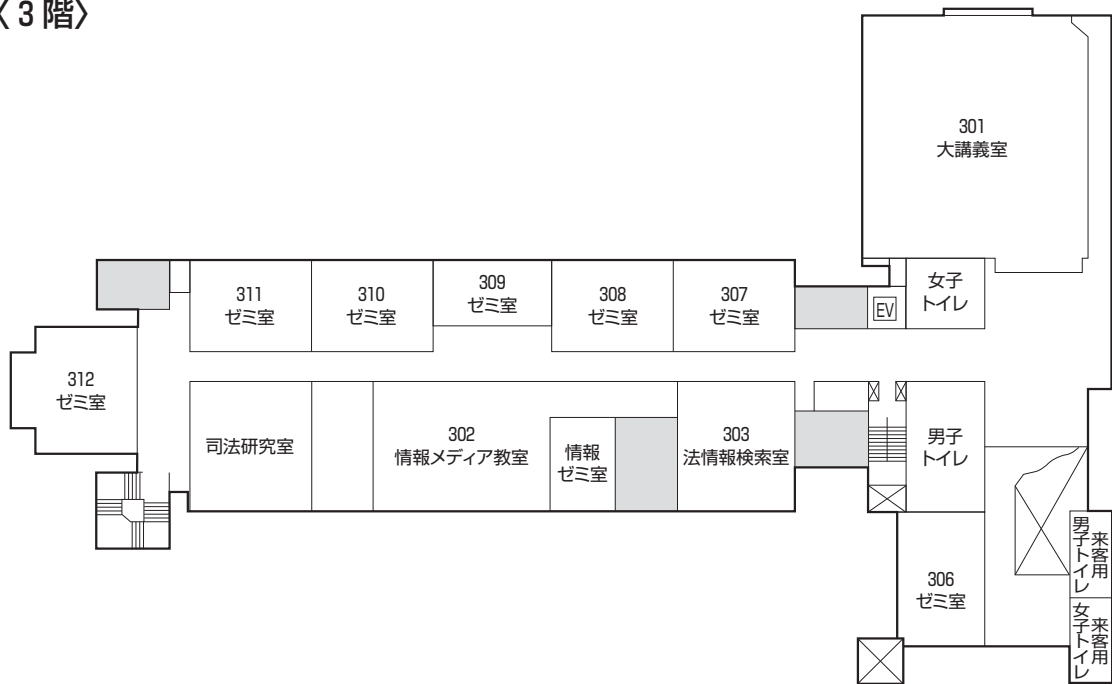
<1階>



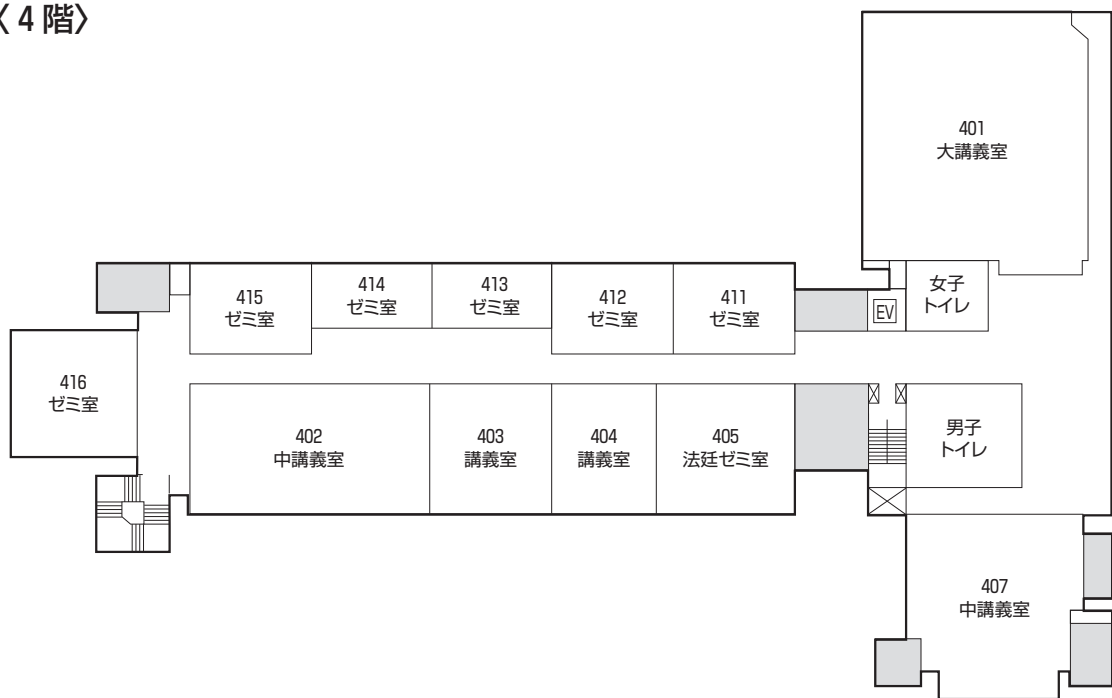
<2階>



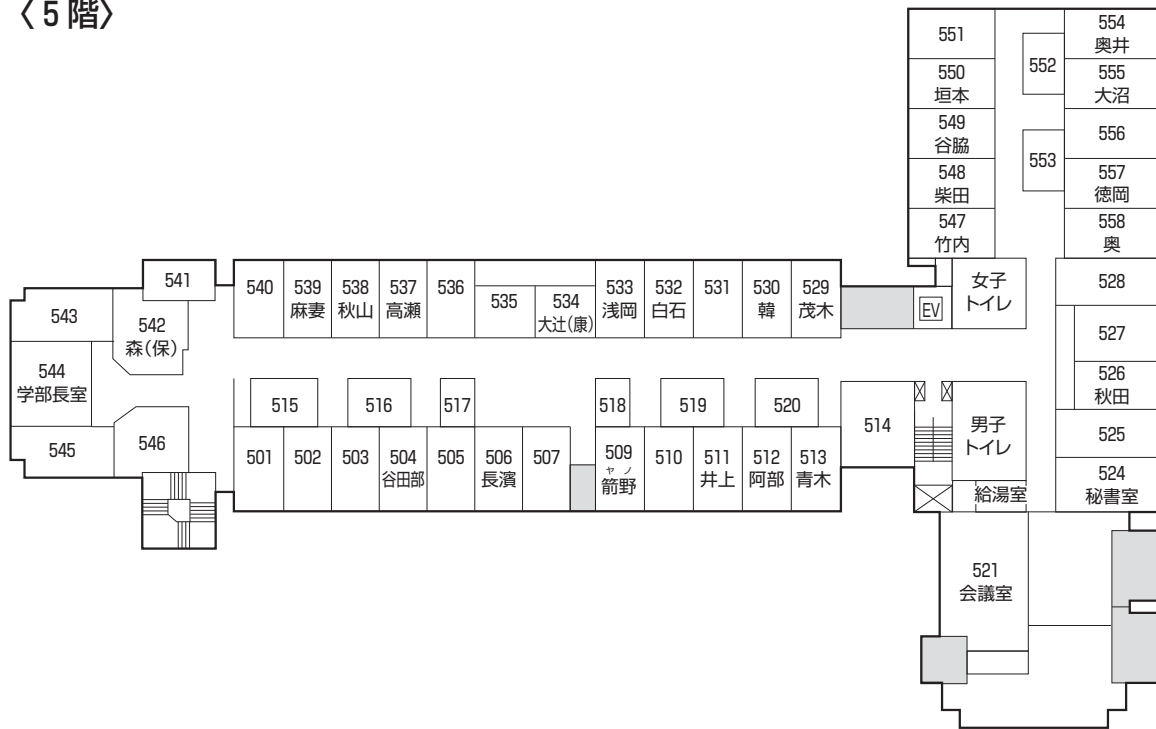
〈3階〉



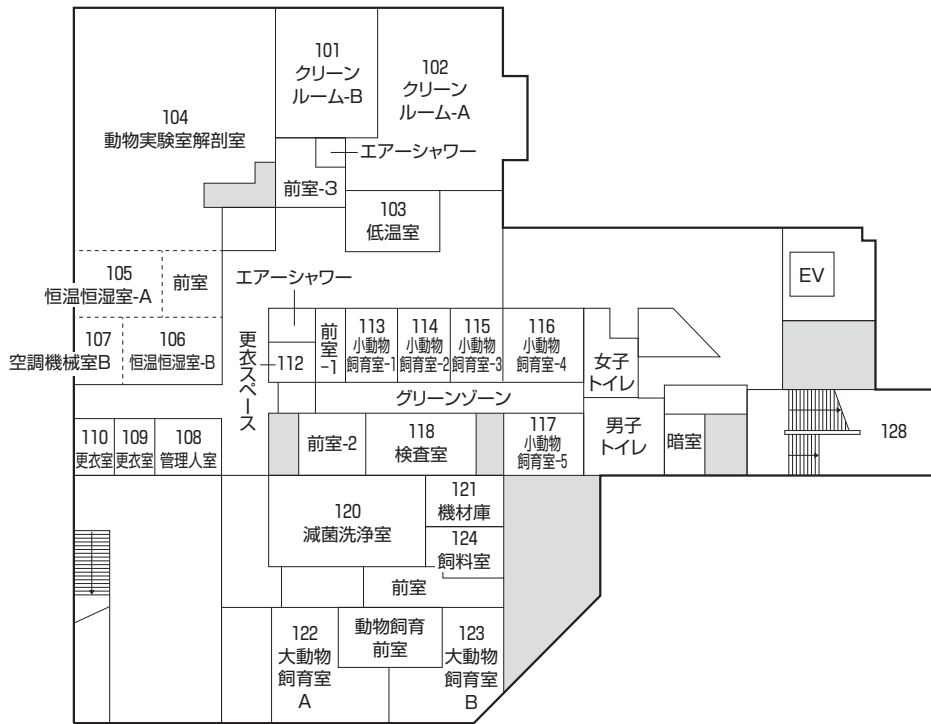
〈4階〉



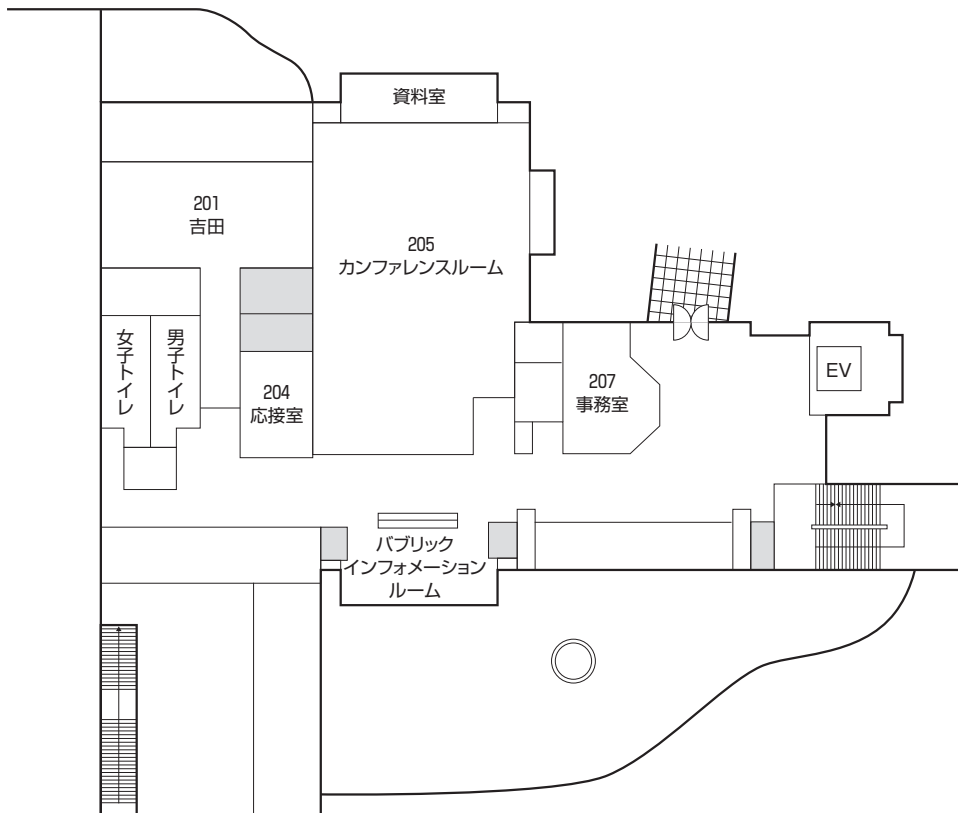
〈5階〉



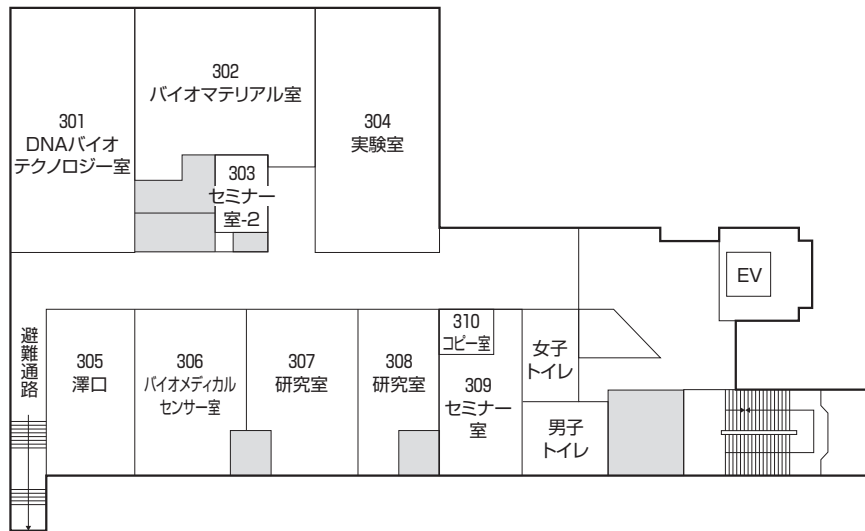
<1階>



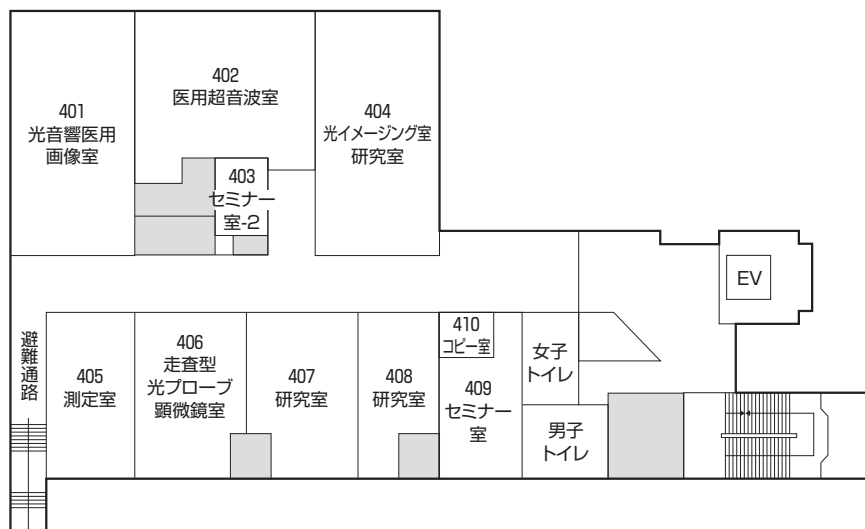
<2階>



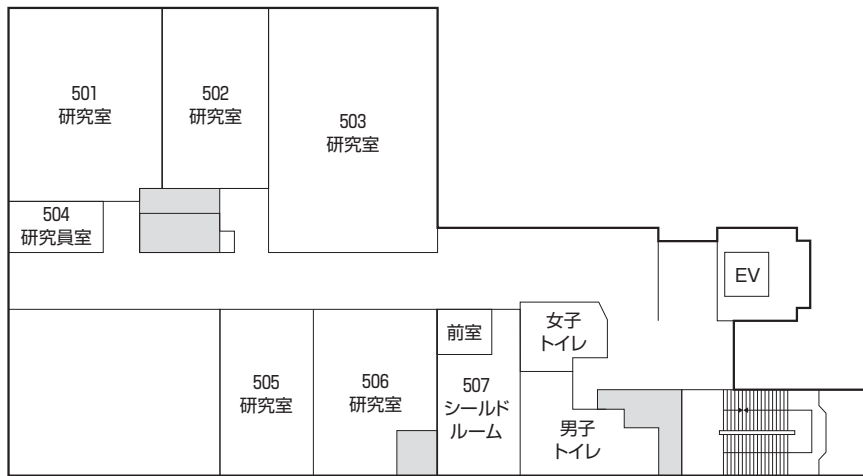
〈3階〉



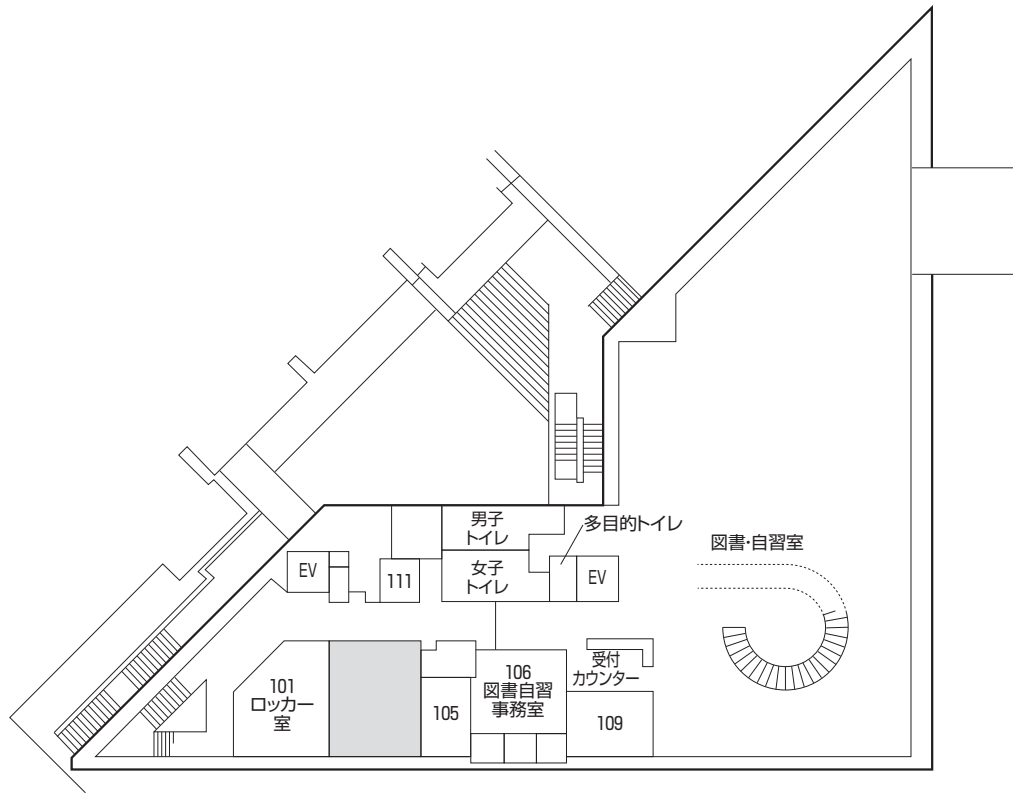
〈4階〉



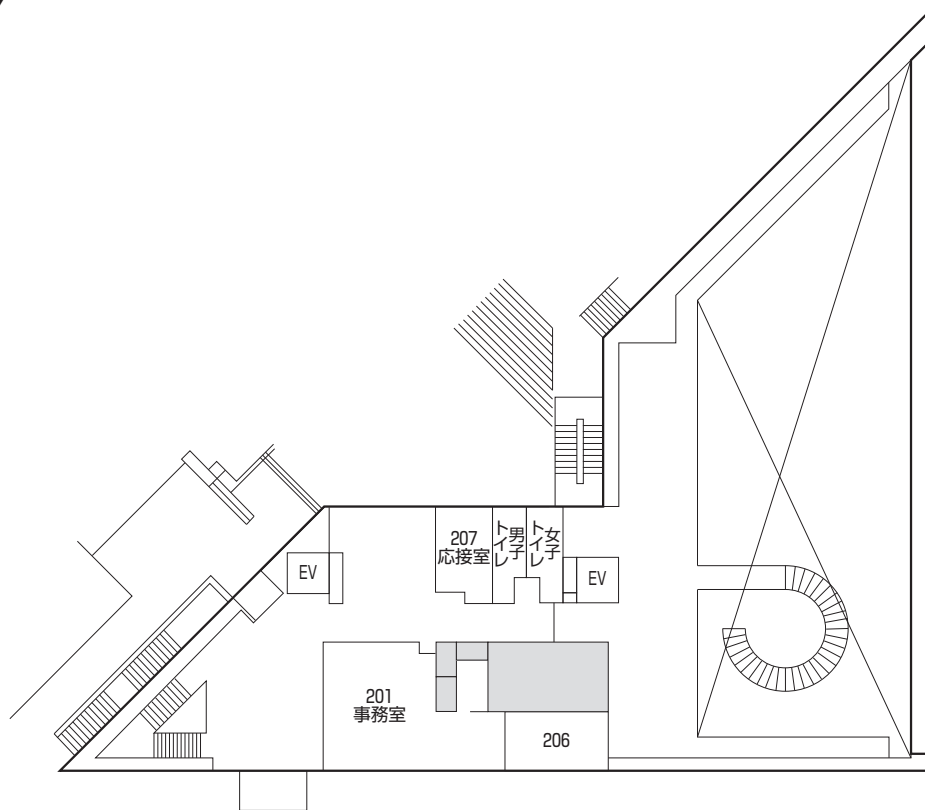
〈5階〉



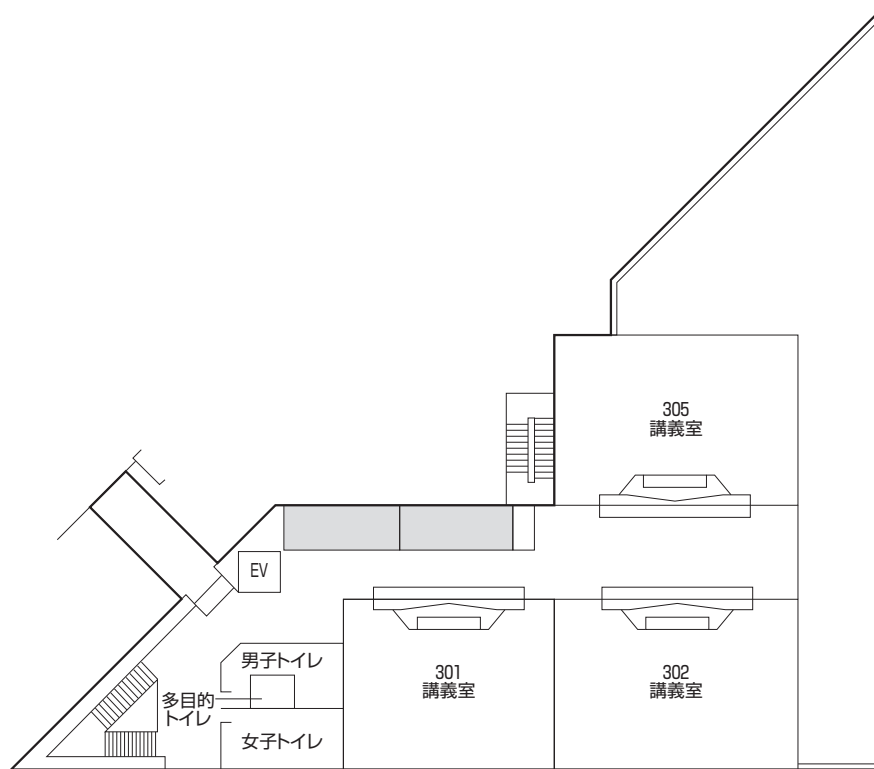
〈1階〉



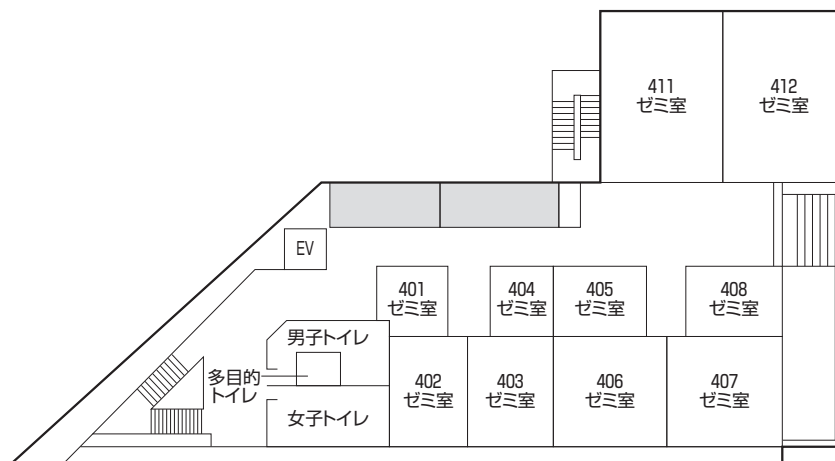
〈2階〉



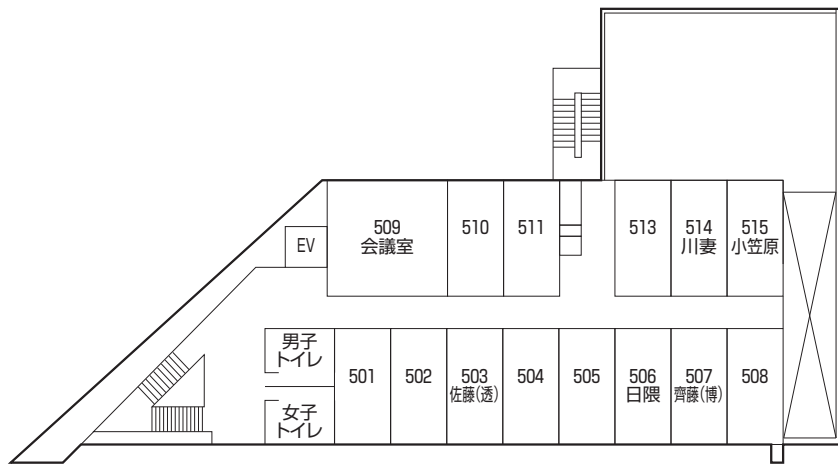
〈3階〉



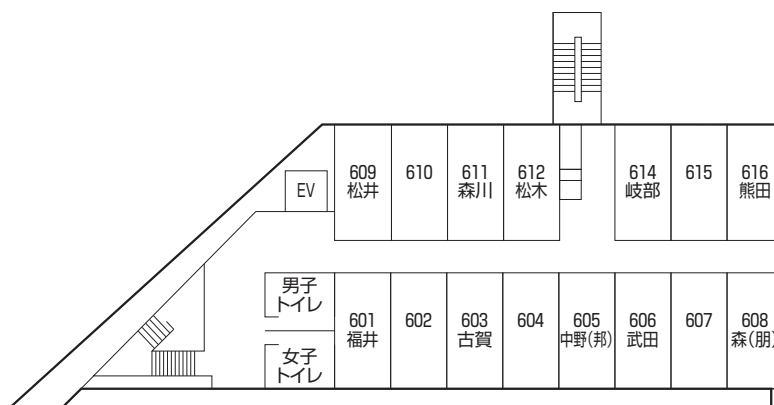
〈4階〉



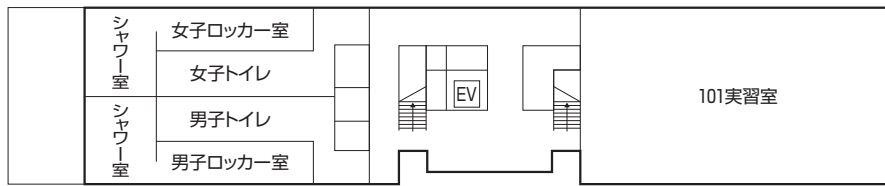
〈5階〉



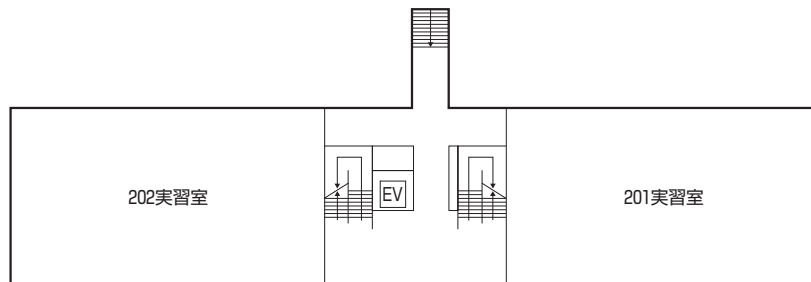
〈6階〉



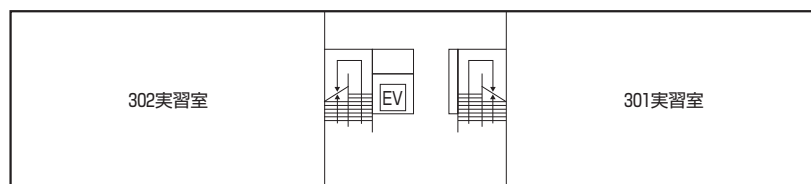
<1階>



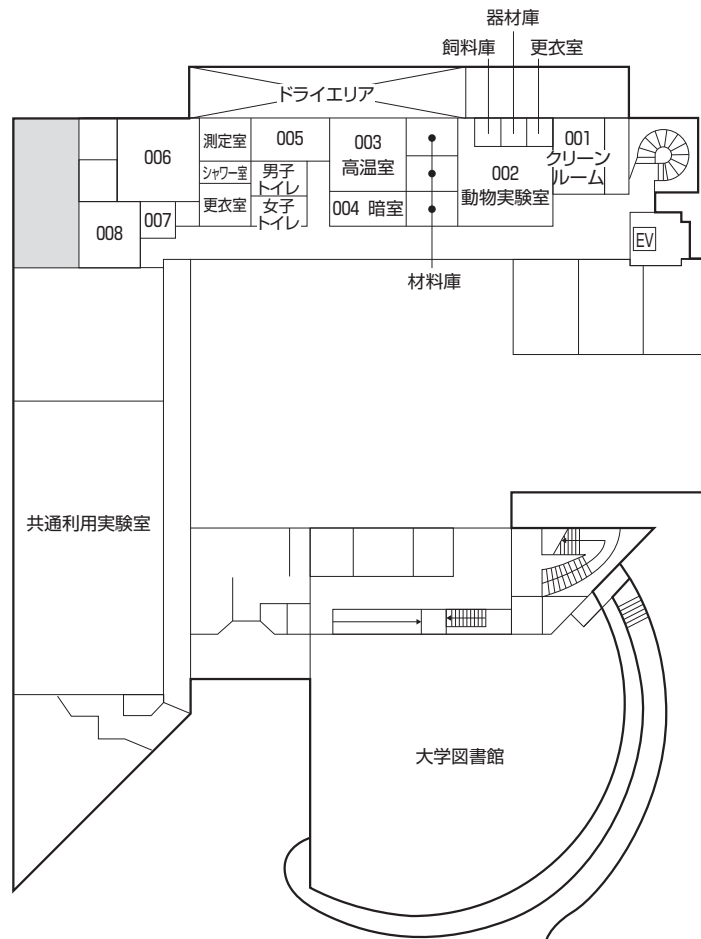
<2階>



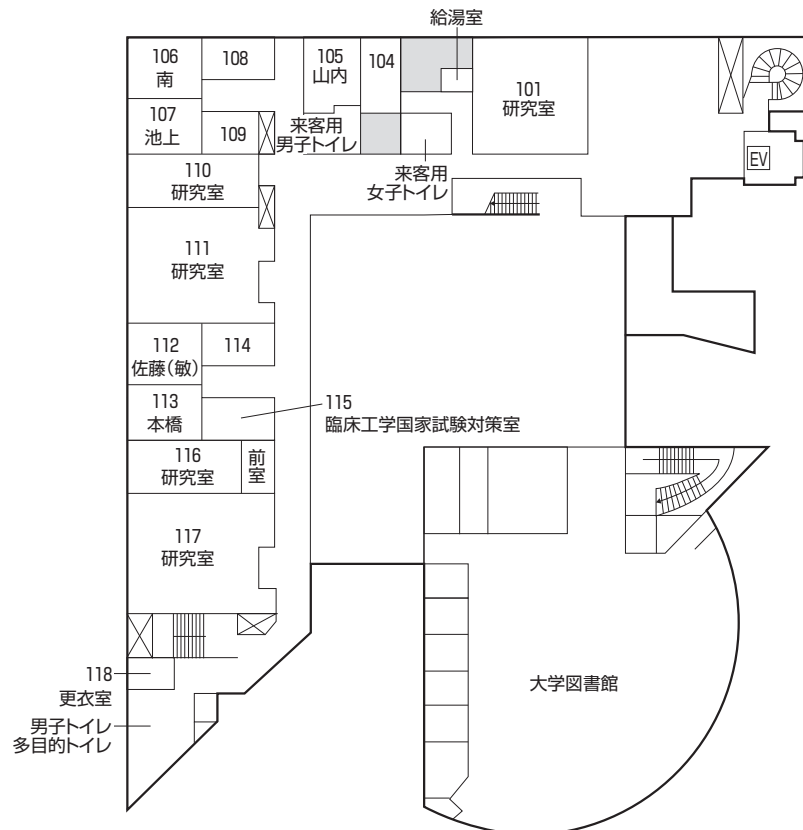
<3階>



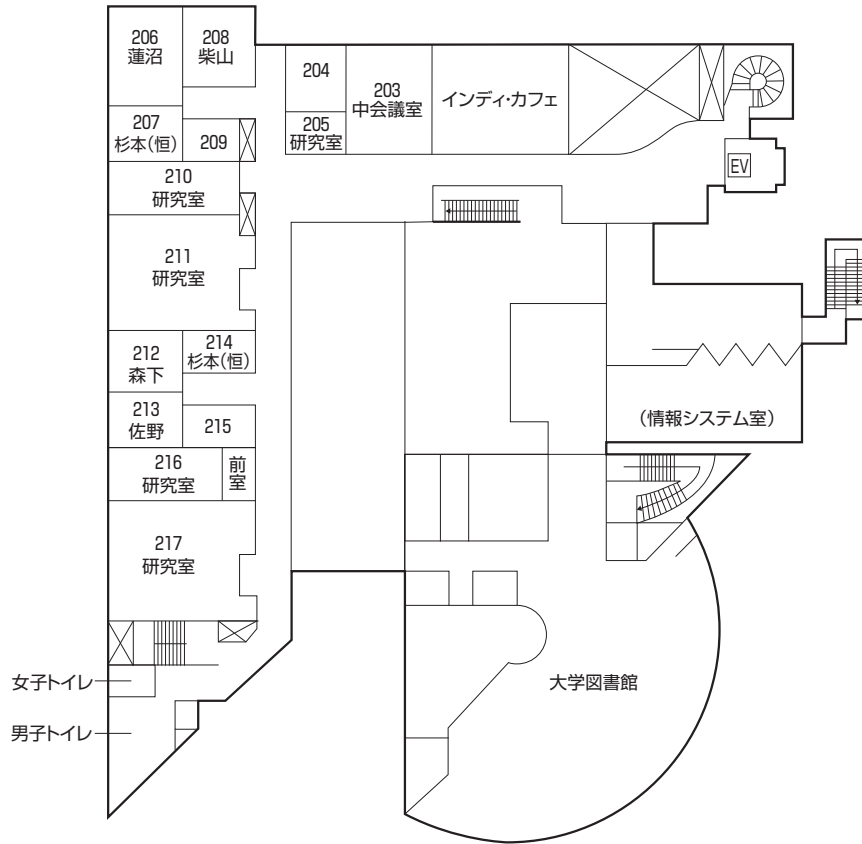
〈地階〉



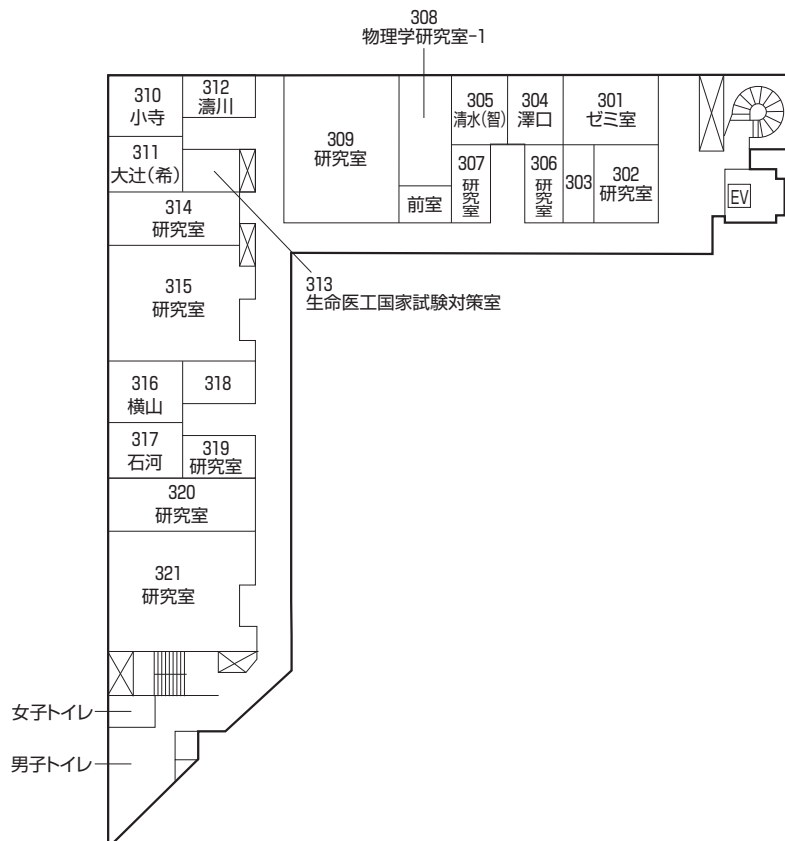
〈1階〉



〈2階〉



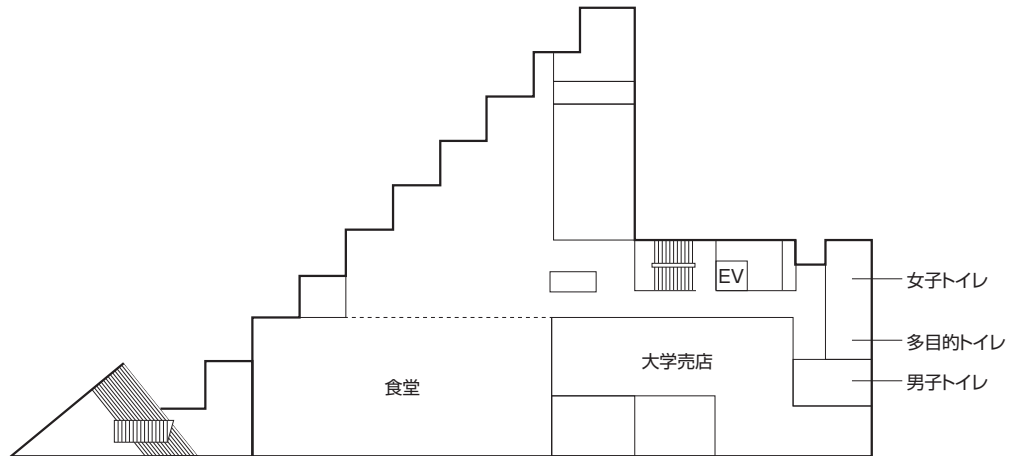
〈3階〉



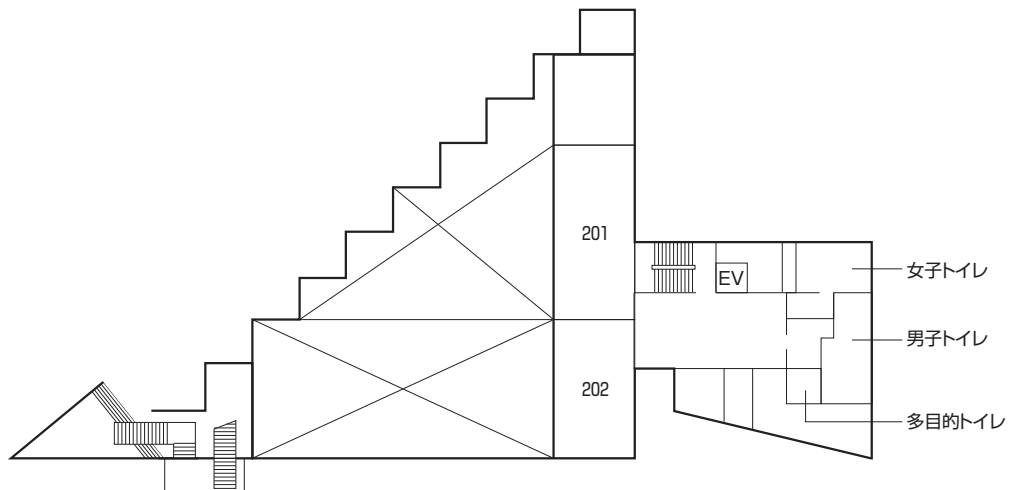
〈4階〉



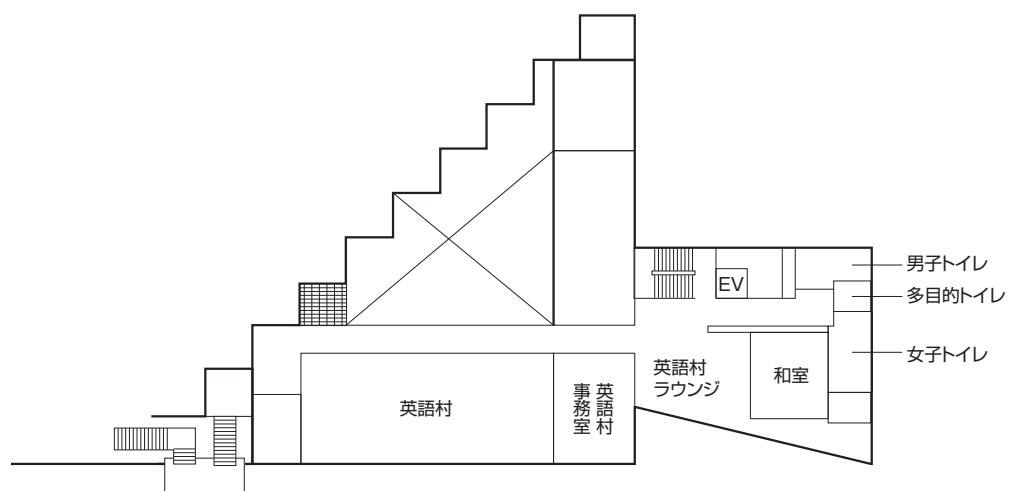
〈1階〉



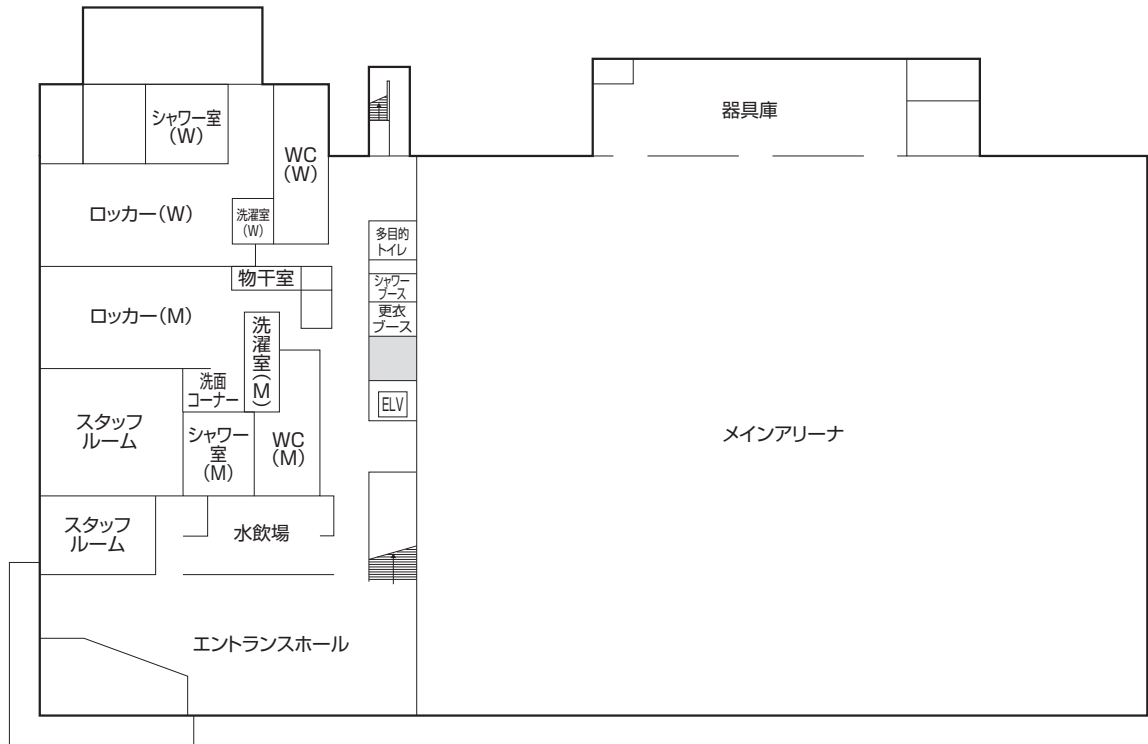
〈2階〉



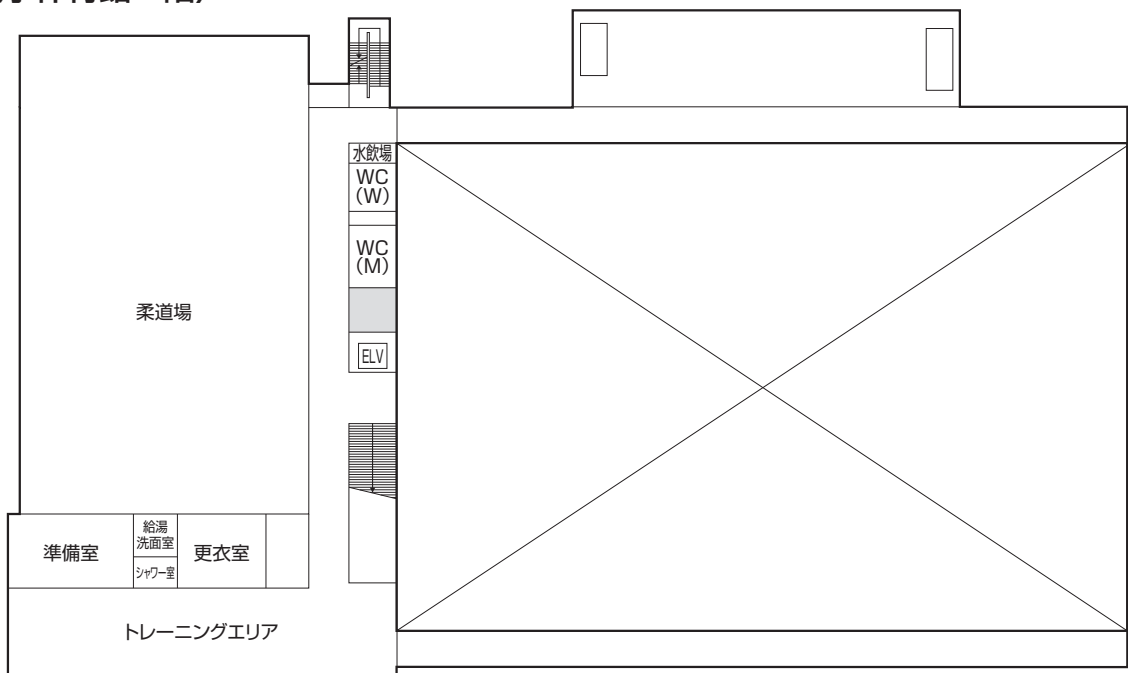
〈3階〉



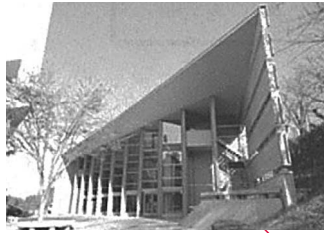
〈大学体育館 1 階〉



〈大学体育館 2 階〉



キャンパスマップ



交流会館



野球場



Ⅲ号館



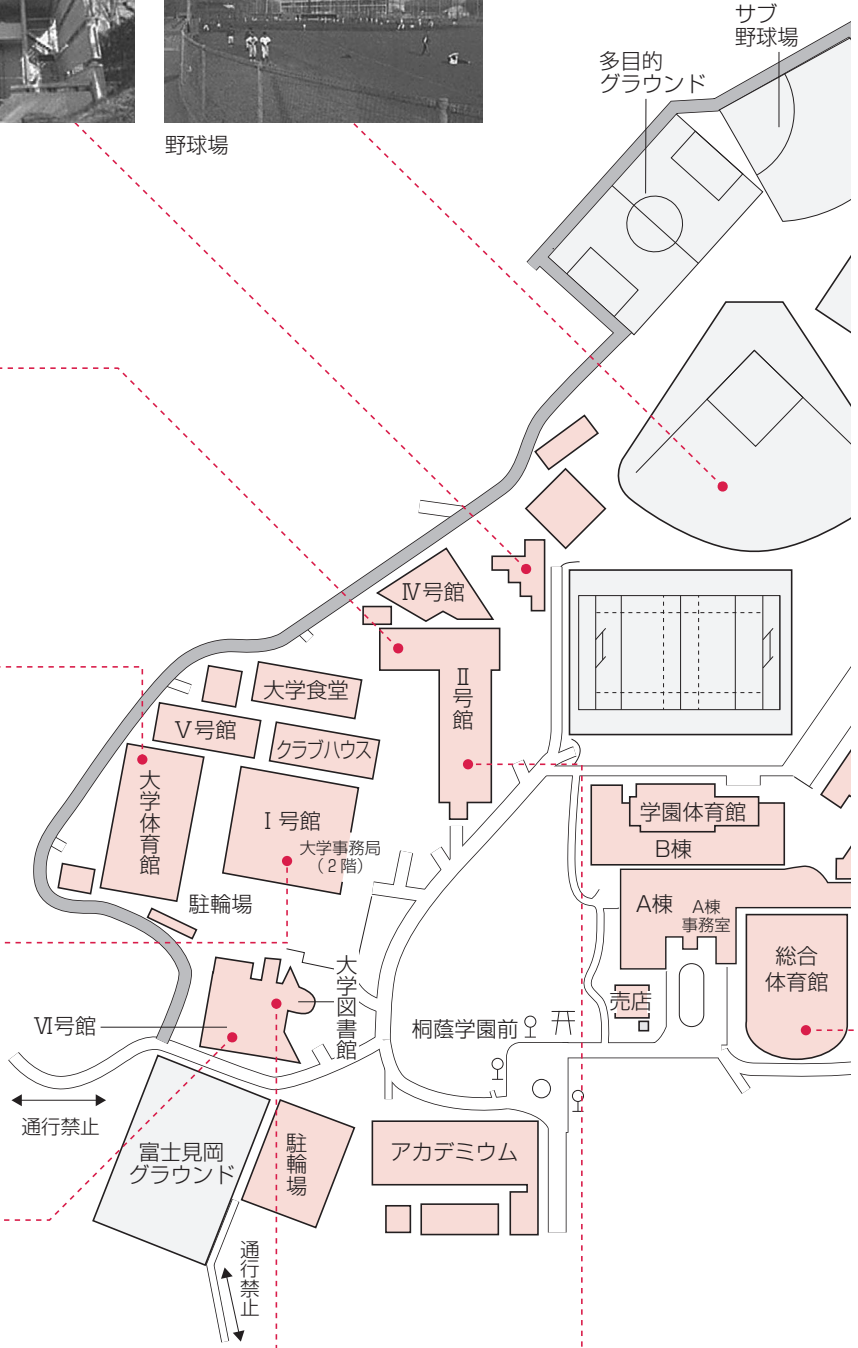
大学体育館



I号館



Ⅵ号館



大学図書館



Ⅱ号館



総合体育館
メインアリーナ
サブアリーナ



外観



2026年度 現代教養学環
履修要項



〒225-8503 横浜市青葉区鉄町1614